



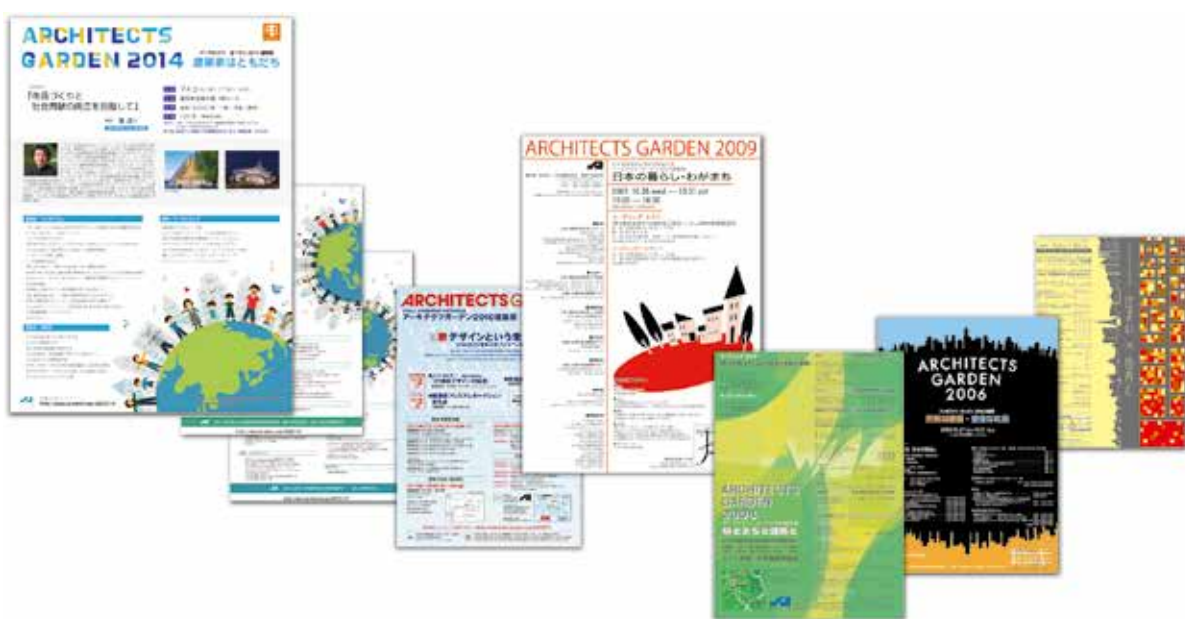
Annual Report 2014

支部長挨拶・四役の声／委員会活動報告／部会活動報告／地域会活動報告

特集

保存問題大会
アーキテクト・ガーデン建築祭

歴史



Bulletin

2015 **6**
Vol. 256



CONTENTS

特集：
保存問題大会
アーキテクト・ガーデン建築祭 歴史

支部長挨拶

四役の声

委員会活動報告

部会活動報告

地域会活動報告

広報からのお知らせ

- 3 アーキテクト・ガーデン建築祭
- 6 拡大保存問題委員会から保存問題大会へ

- 8 JIA 関東甲信越支部 支部長 上浪 寛

- 9 ・副支部長 赤羽 吉人 ・副支部長 藤沼 傑 ・副支部長 左 知子
- 10 ・幹事長 高階 澄人 ・副幹事長 鈴木 利美 ・副幹事長 連 健夫

- 11 ・総務委員会 ・広報委員会 ・建築相談委員会
 ・保存問題委員会 ・苦情対応委員会 ・支部建築家資格制度委員会
- 12 ・クライアント支援委員会 ・都市・まちづくり委員会 ・建築・まちづくり委員会
 ・災害対策委員会 ・国際事業委員会 ・環境委員会
- 13 ・アーバントリップ実行委員会 ・建築セミナー実行委員会 ・JIAトーク実行委員会
 ・学生デザイン実行委員会 ・大学院修士設計展実行委員会 ・アーキテクト・ガーデン実行委員会
- 14 ・支部大会検討委員会 ・交流委員会 ・委員会一覧

- 15 ・デザイン部会 ・都市デザイン部会 ・住宅部会
 ・メンテナンス部会 ・住宅再生部会 ・情報開発部会
- 16 ・建築交流部会 ・建築家写真倶楽部 ・再生部会
 ・ミケランジェロ会 ・金曜の会 ・部会一覧

- 17 ・神奈川地域会 ・千葉地域会 ・埼玉地域会 ・茨城地域会
- 18 ・栃木地域会 ・群馬地域会 ・山梨地域会 ・長野地域会
- 19 ・新潟地域会 ・中野地域会 ・三多摩地域会 ・杉並地域会
- 20 ・新宿地域会 ・城東地域会 ・文京地域会 ・渋谷地域会
- 21 ・世田谷地域会 ・千代田地域会 ・中央地域会 ・城南地域会
- 22 ・城北地域会 ・港地域会 ・目黒地域会 ・地域会一覧

- 23 「ホームページワーキング」・「Bulletin 編集ワーキング」の活動に参加しませんか！

- 23 編集後記

- 24 Bulletin2014 年度を振り返って

公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部
 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-3-18 JIA 館
 Tel: 03-3408-8291 Fax: 03-3408-8294
<http://www.jia-kanto.org/members>



アーキテクト・ガーデン建築祭



委員長
藤沼 傑

今世紀を振り返る

私は現在アーキテクトガーデン実行委員長を 2013 年から務めておりますが、その前にアーキテクトガーデンに参加した事はなく、歴史を語るには JIA ウェブサイトの残されている記録をたどっていくほかありません。サイトには 2001 年のアーキテクトガーデンがありますが、記事にはその前年と同じスローガン「建築は楽しい」と記載され、会場を銀座とした 3 回目の銀座建築祭と書かれています。さらに、2000 年から全国に先駆けて CPD を実行したようです。この時の支部長は服部範二、AG 実行委員長は中山庚一郎です。会期は 10 月の 19 日間、8 つの会場で、プロダクトデザイン展、模型展、スケッチ、CG 展などが開催されました。これら展示への出展料が 43 万円、LF 等からの協賛金が 85 万円、企業からの協力金が 24 万円、各セミナーやパーティーの参加料が合計約 240 万円と記載されていますので、約 400 万円の予算で、38 名の実行委員が活動したイベントでした。

因みにバブル崩壊後の不景気は 2002 年 1 月が底だったと言われています。1999 年のゼロ金利政策により多少公共投資は増えましたが、2000 年から 2002 年の間で多くの企業が倒産、またはリストラを実施した時代です。多くの設計事務所も縮小されました。

2002 年の記録には、会員約 620 名が CPD を取得したと記載されています。また、メインパーティーの収支は 230 万円と報告されています。銀座で 4 回連続して開催しましたが、



2001 年「緑豊かなまちと建築」



2002 年「街の今昔、そして未来」

関東甲信越支部の県域との関係を今後どのようにするかが報告書として問題提起されています。セミナーでは「なぜ日本の街はちぐはぐなのか」や「日本の前衛を再考する 小奇麗なものは美しくない」などにおいて、活発な議論が行われていたようです。



2003 年「夢・デザイン・まち」

2003 年は会場を銀座からメインを建築会館に移動して開催されました。銀座会場 (TEPCO 銀座館) もサブとして残り、杉並地域会が参加する事で、会域が広がり、合計 1000 名強の方が参加しました。「JIA 新人賞受賞者を迎えて」「東京の変わりゆく景観を考える」等においては理想と現実に関する活発な議論が学生も交えて行われました。会員集会に置いては資格制度などについて 120 名の会員が集まりました。2004 年は東京で全国大会が開催されましたのでアーキテクトガーデンとしての開催はありませんでした。

2005 年はメインを再び銀座に戻し、銀座の旦那衆とも積極的な交流をしました。また、杉並地域会も 2003 年に続き、積極的に活動を支援しました。他方、実行委員の数が少なく、

COLONNADE

十分な活動ができなかったと上浪実行委員長は報告しています。2001年の時は38名が活動したと報告されていますので、戦後最長のいざなぎ景気でしたが、設計事務所を含む企業を取り巻く環境は厳しく、会員の活動が縮小傾向にあった事が伺えます。この年からUIA大会準備活動を始めています。

2006年も東京都中央区、全銀座会、(株)INAXのご後援によりメイン会場を銀座とした7回目が開催されました。メインイベントは、小池百合子氏(当時内閣総理大臣補佐官、前環境大臣)、野沢正光氏(建築家)、武田洋平氏(文化研究者)をお迎えしたリレー形式の講演会でした。2003年パーティー参加者は少なかったようですが、この年は100名近くが参加し、景気回復をようやく実感し始めた年でした。



2005年「住まい×街かど」



2006年「元氣な建築・安全な社会」

2007年は東京での全国大会でしたので、アーキテクトガーデンとしての開催はありませんでした。やっと景気回復を実感し始めた矢先にサブプライムローン問題が発生し、世界不況に、2008年9月にリーマンショックで景気が大きく後退しました。Bulletin紙2008年アンニュアル号は「荒波に負けない」特集で出江寛氏が「モダニズムからの決別」、六鹿正治氏が「100年に一度の危機にどう対処するか」、小川富由氏が「変革の時代のなかで」を寄稿しています。その前の7月にUIAトリノ大会に総勢約200名の方がUIA東京準備のためにイタリアに渡航しました。また、2007年は東京で多くの地域会が発足した年です。

この年の2008年アーキテクトガーデンは、会場を銀座から神宮前に移し、3夜連続の「建築家クラブ改修記念のタペ企画」が目玉企画として開催されました。パーティーではパルマ産骨付生ハムが振る舞われたようです。



2008年「緑とまちと建築と」

2009年は神宮前で開催されましたが、この年から県単位の地域会が積極的に参加しました。神奈川、埼玉、長野、群馬の地域に根ざした企画は、躍動を強く感じる内容だったと報告されています。

UIA東京大会の前年に開催された2010年アーキテクトガーデンは、神宮前で3日間、翌週に銀座でも開催し、UIA東京大会を都民に周知しました。「建築家プレミアムオークション」が開催され、芦原太郎氏、安藤忠雄氏、乾久美子氏、北川原温氏、隈研吾氏、鈴木エドワード氏、妹島和世氏、谷口吉生氏、西沢大良氏、坂茂氏、藤森照信氏、横文彦氏、山本理顕氏、横河健氏が出品したスケッチ等をヤフーオークションで実施し、総額65万円をUIA東京運営資金として集めました。



2009年「日本の暮らし・わがまち」



2010年「デザインという未来」

2011年に震災があった年の10月にUIA東京大会が開催され、海外からも5000人以上が参加する等、大成功でした。建設関連の各団体が結束した成果です。他方、この大会に大変な労力をJIAアクティブ会員が投入した結果、その後JIA活動に対してはパーンアウトした傾向もいなめません。震災後の緊急復興後にはアベノミクスによる急激な景気拡大により、我々の設計事務所は多忙になり、なかなかJIA活動に時間をとれなくなってきました。



2012年「建築家はともだち」



2013年「建築家はともだち」

そのような状況下、2012年からアーキテクトガーデンは開催時期を6月に変更し、県域も含めた各地域会主催の広域ネットワーク型イベントとなりました。会期は6月15日建築家の日をまたぐ、6月の前後という事で、5月26日ミケランジェロの会に始まり、7月6日まで開催された目黒地域会による「めぐろの建築3団体による気仙沼市震災復興提案展」という長期間、かつ関東甲信越支部全域で、各種プログラムが開催されました。テーマは新たに「建築家はともだち」とし、市民とのネットワーク形成に重点をシフトしました。その後の、2013年、2014年も全く同じテーマ、方針で開催してきました。毎年約30のプログラムが開催され、合計約1000人が参加する、総体としては大きなイベントとなっています。



各年のアーキテクトガーデンの詳細は下記アーカイブ頁、及びBulletinオンラインの記事を参照して下さい。

■アーキテクト・ガーデン アーカイブサイト
http://www.jia-kanto.org/AG_archive/

他方、広域に分散しているため、ひとつのイベントとしての一体感が毎年のように薄れてきていると感じています。さらに、UIA大会後はJIAの法人格を公益社団法人へ移行したため、その制度作成に多くの委員会時間を費やした時期でもあり、特に東京での纏まりが見えなくなってきました。

そのような状況下、本年2015年は東京での保存問題大会は東京での纏まりを再度つくるイベントとなる事を期待しています。県域でのイベントは2009年から定例化しており、各地域に密着した活動が市民に定着し始めています。公益社団法人の各種制度作りが漸く一段落してきました。来年は支部大会と連携する事で、東京と県域との両方が活性化し、日本のBuilt Environmentが向上していく事を期待しています。



2014年「建築家はともだち」



第23回保存問題長野大会・片倉館見学 第23回保存問題長野大会・シンポジウム

いた訳ではなく、栃木県や東京都では早めの開催となっています。続けるうちには種々の出来事があります。とりわけ第20回栃木県宇都宮市開催に関しては記憶に生々しく残っています。2011年3月12・13日開催予定の前日11日昼過ぎに、経験したこともない大きな揺れに襲われたのです。それが東日本大震災でした。交通も情報も遮断されたなか、開催中止となりました。もう一つ記憶に新しいのが、昨年の第24回長野大会で、開催予定の2月15・16日の前日から関東一円は大雪に見舞われ、交通が寸断し中止となりました。栃木県は翌年に、長野県は同年5月にリベンジ開催を果たしました。

■保存問題大会開催の意義

保存問題委員会誕生から拡大保存問題委員会始動までは、平成パブル景況と期を一にしており、当時の建築、町並み、自然環境を取り巻く状況は非常に危機的であったようです。社会的には、建物や景観に文化的な意識が入る余地など無いような中で、委員会を立上げ、拡大委員会を始めました。当初委員会内部の勉強会的意味合いが強かったものが、保存活用を考える大きな場として、その時期に委員会や地域会で問題になっているテーマを取り上げ、行政・建築他団体・一般市民をも包含した上で、保存活用に大きな意味付けをし、また実践し、発展してきたのではないのでしょうか。

■支部大会へ向けて

2015年度5月23・24日の第24回保存問題東京大会を最後に保存問題大会は終了し、2016年度からは(仮称)支部大会が群馬県を皮切りに開催されることになりました。そこにおいてはJIA会員だけではなく、地域の一般市民や行政なども交流を図り、地域を巡って開催する意義をあらためて問い直してほしいと願っています。「地域における問題に対し、建築家は何をすべきか、何ができるのか。」

支部大会へ向けて

保存問題委員会 委員長
安達 文宏



■保存問題委員会の誕生

「保存問題大会の歴史」は、即「保存問題委員会の歴史」です。保存問題委員会は1989年6月川添智利氏を委員長に発足しました。そこに至るまでには次のような経過があります。同年1月の役員会で高瀬静昭幹事から「保存に関する委員会の設置についての要望」があり、2月常任幹事会へ東直彦幹事より要望書を提出、4月11日の新旧役員会で「(仮称)保存委員会設立に関する準備委員会による委員会設立案」が提案され可決了承、5月17日に「仮称保存委員会設立に関する準備委員会」が開催され、「保存問題委員会」の名称と共に、「会の目的」「活動の内容」「委員候補の選出」がなされました。

■拡大保存問題委員会始動

拡大保存問題委員会は、1991年度川添委員長の下で第1回目を迎え、長野県松本市で開かれました。当初は東京で開いていた委員会も、地域風土に根差した建物や景観を問題にするには地域開催が重要とのことで、東京から出陣するかたちで行われたとのことです。しかし、地域の主体性を重視する方向へ舵取りし、地域会協力を得て開催するようになりました。始動時はセミナー的な色合いが濃く、規模的にも控えめなものだったようです。拡大保存問題委員会は、兼松敏一郎委員長の第7回神奈川県藤沢市開催まで続きます。

■保存問題大会へ

兼松委員長の下、第8回目から保存問題大会との名称になりました。東京都八王子市で開催され、大学セミナーハウスで1泊2日の議論に花が咲いたとのことです。地域サミットとも共催となり、規模的にも大きくなってきました。篠田義男委員長の下、第10回保存問題大会を山梨県甲府市で開催し、これで1都9県を一巡したことになります。

■保存問題大会を続けること

二巡目は栃木県日光市でスタートを切りました。10都県を順番に巡るにしても、それぞれ地域の事情もあり、必ずしも順番が決まって

保存問題大会 一覧

大会(拡大委員会)	年度	開催地(回)	テーマ	委員長
第1回拡大委員会	1991年度(H3)	長野県松本市①	JIA保存アピール91-JIAの保存問題の取り組みについて	川添智利
第2回拡大委員会	1992年度(H4)	群馬県高崎市①	豊かな時代のまちづくりを考える	高瀬静昭
第3回拡大委員会	1993年度(H5)	栃木県栃本市①	神奈川県立音楽堂の議論	同
第4回拡大委員会	1994年度(H6)	茨城県土浦市①	ミッションによる活動	夏目勝也
第5回拡大委員会	1995年度(H7)	千葉県佐原市①	歴史的文化的価値のあるものだけでなく、日常的なものの保存	同
第6回拡大委員会	1996年度(H8)	新潟県新潟市①	新潟「港町はいかに蘇るか」	久保寺敏郎
第7回拡大委員会	1997年度(H9)	神奈川県藤沢市(江ノ島)①	大山から江ノ島へ!	兼松敏一郎
第8回保存問題大会	1998年度(H10)	東京都八王子市①	建築を残すということ	同
第9回保存問題大会	1999年度(H11)	埼玉県小川市①	さいたまにみる保存の今	同
第10回保存問題大会	2000年度(H12)	山梨県甲府市①	使い続けていくために	篠田義男
第11回保存問題大会	2001年度(H13)	栃木県日光市②	世界遺産のあるまちで	同
第12回保存問題大会	2002年度(H14)	長野県長野市・須坂市②	住民に支持される保存とは	小西敏正
第13回保存問題大会	2003年度(H15)	群馬県前橋市②	シルクの町に建築を求めて	同
第14回保存問題大会	2004年度(H16)	千葉県大多喜町②	モダニズム建築 持続への道	同
第15回保存問題大会	2005年度(H17)	茨城県つくば市②	つくば30年の検証 美しい街を未来へ	川上恵一
第16回保存問題大会	2006年度(H18)	東京都文京区(東京大学)②	建築家と保存文化の現在(いま)	同
第17回保存問題大会	2007年度(H19)	新潟県新潟市②	城下町しばたのいまと未来 まちの資産をどう生かすか? 「守る」「生かす」「創る」景観まちづくり	同
第18回保存問題大会	2008年度(H20)	神奈川県横須賀市②	近代化遺産を市民にひらく 横須賀、浦賀が伝える近代の記憶の景	和田昇三
第19回保存問題大会	2009年度(H21)	山梨県甲府市②	近代化遺産を受け継ぐために地域の歴史と共に生きる保存活用の方法を探る	同
第20回保存問題大会	2010年度(H22)	栃木県宇都宮市(大谷町)③	大会前日東日本大震災発生により中止	同
第21回保存問題大会	2011年度(H23)	栃木県宇都宮市(大谷町)③	大谷石の可能性を探る	左知子
第22回保存問題大会	2012年度(H24)	埼玉県さいたま市・川口市②	日本文化の中のモダニズムをどう捉えるかー保存活用と耐震性について	同
第23回保存問題大会	2014年度(H26)	長野県岡谷市・諏訪市③	保存は未来への創造である	安達文宏
第24回保存問題大会	2015年度(H27)	東京都の14地域会③	未来へ伝える東京のアイデンティティー・ヘリテージ(遺産)を共有する成熟社会に向けて	同
第1回支部大会	2016年度(H28)	群馬県①		

拡大保存問題委員会から保存問題大会へ

保存問題委員会草創期の思い出

準備委員会委員長 第2代委員長
高瀬 静昭



■第1～3回拡大保存問題委員会

(長野県松本市・群馬県高崎市・栃木県栃本市)

発足の頃を思い出し何かを書くよう現安達委員長よりご指示をいただき、保存問題委員会の起草分を書いた頃が懐かしく思い浮かべられる昨今です。35名の委員による準備委員会を経て平成元年6月に委員会が正式発足しましたが、JIA会員6,800人が、開発・保存等夫々様々な立場でそれらに関わっており、この時代多くの歴史的文化的資源や自然環境などが次々と破壊されている中で長野の会員からの長野高校の保存に関する協力要請があり、会議を進める中で長野での日常の保存に関する活発な活動の内容を宮本忠長会員から報告を受け、是非いい機会

第4回・5回拡大保存問題委員会

第3代委員長
夏目 勝也



■第4回拡大保存問題委員会(茨城県土浦市)

「ミッションによる活動」

保存問題委員会は活動の継続が支部幹事会で問われ、委員会ではJIAのミッションのもと行動することが義務付けられました。そのまま拡大委員会のテーマとなりました。委員会閉鎖の危機を乗り越えて、体制を整え新しい試みを模索し始めた最初の拡大委員会でした。委員構成と委員会活動、その一環である拡大委員会等すべて洗い直しをしました。中でも拡大委員会は出前して行くことを改め、開催地域の主体性を重視しました。会員以外の一般市民も誘い、建築保存問題の社会への問いかけの芽生えでした。

第6回拡大保存問題委員会(新潟県新潟市)

第4代委員長
久保寺 敏郎



■保存の各地域での開催 200名に近い現在の状況から考えると6回の新潟大会はまだ少なく、参加者は60～70名程度であった。

当初JIA保存問題委員会は「秦楽堂」「東京駅」「明日館」等著名な建築の保存に向けての活動であった。私としては、身近にあるもの、又は自らの思いを含めその存在が永続して欲しい建築の保存を考えていた。「小田原城内小」「雄山荘」「明治大学記念館」「秦野の鹿鳴館梅原邸」(今でも運動継続中)それぞれの保存の活動に携わった。成果があったとは言えないがその時

なので、現状を見せていただき勉強会も含めた委員会を松本で開催する事が最初の発端でした。又、支部の役員会も同時に開催しての第1回の松本での委員会の実績が、年に1度は地域に出向きそこでの交流を通じて保存活動を充実させる事が提案され、次回は高崎での開催となり、第3回の栃木市での開催には当時委員会が関わっていた、佐原で保存建造物に住み活動されている住民の方々の参加がありました。手探りで始まった委員会も交流を通じ支部の中に浸透出来るきっかけが出来たと自負しています。

当委員会の現在の活発なる活動に対して、JIA発足当時からデザイン部会保存分科会で見学会、勉強会、講演会、他団体との交流等、地味な活動を続けていただいた当時の会員の方々の活動が原点となっており、又、今まで活動を推進させていただいた会員の皆様、歴代委員会の皆様方のご努力に関してこの場をおかりし感謝申し上げます。

■第5回拡大保存問題委員会(千葉県佐原市/現在は香取市)

「歴史的文化的価値のあるものだけでなく、日常的なものの保存」

委員会のパンフレットの主旨にも示されている一文が、委員の議論の中から生まれた時期でもありました。委員会が目指そうとする意志が、明確に見えてきました。つまり建築の保存は価値問題ではなく、先達をはじめ私たち自身がつくって来たどこにでもあるまちと建築の、健全な存続を願うことをテーマとしたことです。

●開催県内の一地域で集中的にテーマを絞って開催。

●佐原は、後に重要伝統的建造物群保存地区に指定されるにいたる特徴に注目、建築の保存問題がまちづくりにも連動することを示した。

●子どもたちにも参加を促し、まちの好きなところをポラロイド・カメラで撮影し、将来像を描いてもらう。などの試みでもありました。

いつも考えていたのは、その建物が在る場所と街のたたずまいであった。建築が造られた意味、それが存在している事による風景、人々のその場の記憶の継承。必ずしも全てが凍結状態で良い訳ではないが、やはり人の営みが歴史であり、自らの空間体験が生き方に深く関わってくる。

新潟でも保存の重要性と、これから街づくりの新たな街のあり方、構成を含め議論は白熱した。各地域に出向いて現地で体験することは、多くの刺激を受けると同時に、迎える側も新たな問題を認識する契機となる。2巡目、3巡目と保存大会の参加者が増えて、その地域、その場所にしかない佇まい及び個の魅力の存在を体験することは、建築家としての活動を考える上で重要だと思う。

2014 年度 JIA 関東甲信越支部
支部長挨拶



JIA 関東甲信越支部
支部長
上浪 寛

■ 2014 年度は、議員立法による改正建築士法の成立、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会施設に関する行政や関連団体とのやり取りなど、他会との連携が実を結んだ年でした。2014 年 6 月、東京都はオリパラ関連施設の建設発注を設計施工一括で発注すると発表しましたが、その後、東京三会の要望を受けて東京都と三会は意見交換を重ねてきました。その成果として 2015 年 3 月 6 日、東京都から東京三会に回答書が出されました。東京三会の意見を大きく取り入れ、専門家団体との協議の場に今後も期待することが述べられています。これらの活動について JIA、特に関東甲信越支部が果たした役割は大きなものですが、JIA 単独の活動とは明らかに異なる対応を実感し、また運動に終わらないネゴシエーションの大切さを実感した年でもありました。これらの活動の成果は何度も回を重ねることで評価に値するものになると考えています。2020 年東京オリパラ競技大会の関連施設を始めとして次世代に正しいレガシーを残すため今後とも、専門家団体として他団体とも連携しながら国及び東京都との意見交換を重ね、協力をしていく考えです。良い建築やまちづくりのために JIA が果たす役割は大きく、設計業界に限らない多角的な専門家の連携が重要になると考えています。

支部長 3 期目に入った 2014 年は新法人移行から 2 年目でもあり、試行錯誤しながら支部規定類の整備、支部組織制度を整理してきました。準会員・協力会員制度の費用負担や会員サービスは議論の中で方向性が決まり、2 年後を目途に支部・地域会で統一した運用を目指します。JIA 活動をスムーズに効果的に動かすための委員会制度整備の姿もようやく見えてきました。委員長・部会長会議も回を重ねるごとに横の連携が意識され始め、会議の成果を感じます。委員会活動が連携することで狭い視野に陥ることなく相乗効果が見込めると考えます。今後は JIA 全国会議を介して全国支部とも連携することで、会員からの理解をさらに深めて JIA の大きな力にしていけると考えています。

1987 年 JIA 発足時の正会員 7,000 名の多くは 60 歳以上となり、今後多くの先輩会員が準会員へ移行するなど、正会員から離れていく可能性を秘めています。正会員減少=会費減少に伴い、JIA 財政は年々厳しさを増しており、2014 年度は予算時に計上した取崩し金によりようやく黒字という状態で、単年度では実質赤字でした。繰越金の金額も限られており、財務体質を健全化させる方策を取ることが急務となっています。正会員のみならず、準会員、協力会員の参加を推進し、特に若手会員にとって魅力や期待を持てる JIA 活動を展開しながら積極的に若手を勧誘し、新陳代謝をさせることが JIA の存続に不可欠です。

2016 年 6 月に初めての支部大会を開催するため、支部大会検討委員会を発足させ、大会開催の必要性、意義を述べた役員会への答申をまとめました。会員や一般市民が持つ建築に関連した関心も多様化しており、複数のテーマを挙げた大会の可能性を探ってみようと考えました。挙げられたテーマに関連する委員会や部会が参加する支部の実行委員会が中心となり、開催地と役割分担することで、持続的な大会運営ができると考えています。準備段階から支部会員が積極的に参加し意見を出し合えば、関東甲信越支部 10 都県の大きな力になると考えています。

JIA 全体のために関東甲信越支部が担う役割は大きいことは皆様ご承知の通りです。JIA 正会員が 4,000 名を切るのも時間の問題だと推測されていますが、会員制度、組織の在り方について大きな改革が必要な時期だと思います。2015 年度の支部が果たす役割、県単位の地域会及び東京の地域会が果たす役割を再確認し、より良い方向性について皆さんと議論し行動していきたいと考えています。((株)構想建築設計研究所)

支部大会は飛躍のチャンス



副支部長
赤羽 吉人

■ JIA が公益社団法人として新たなスタートを切ってから 2 年が経過しましたが、我々の活動に対する様々な好影響が徐々に現れ始めているように感じられます。社会、特に行政の方々が JIA を見る目が明らかに変わってきており、JIA 活動が飛躍を遂げる絶好のチャンスが巡ってきていると思います。

そんなタイミングで支部大会の提案がなされたのは実にタイムリーだと思ひ、この 2 月、3 月は、支部大会検討委員として大会の骨格作りに専念しました。

各地域会活動が支部活動や本部活動とうまく役割分担をしながら、地域社会に根を下ろした活動として快く地域社会に受け入れられるようにするために、支部全体が一つにまとまって、地域の市民や行政に日常の JIA 活動をアピールすると共に、大勢の市民が参加して JIA 活動に目を向けてもらえるようなイベントとして、支部大会を位置づけられたら素晴らしいと思います。

保存問題大会やアーキテクトガーデンで培ったノウハウを取り入れて、本部大会とはひと味もふた味も違う関東甲信越支部ならではの貫性と手作り感のある「建築家と市民の会議」を演出してもらえたらと、強く希望するところです。

この総会をもって副支部長を退任しますが、皆さんに支えていただいたおかげで無事務めを果たすことができましたことを心よりお礼申し上げます。

休日の朝自宅で蕎麦打ちに専念できるのが大いに楽しみです。善光寺の鐘の音を聴きながらの「鴨せいろ」は格別です。

((株)林魏建築設計事務所)

パブリックな責務



副支部長
藤沼 傑

■ JIA 会員になって 8 年、JIA 先輩方の行動や意見に常に刺激されながら、建築家としての社会的責務を考えてきました。アーキテクトガーデン 2014 実行委員会委員長 2 年目として、坂茂氏を基調講演にお招きし、170 名以上が参加しました。AG2014 の全 20 プログラム強では一般の方も含め 1000 人以上が参加しています。今年は、若手に焦点をあて、JIA 新人賞受賞者のトークも入れていきます。来年は関東甲信越の支部大会が企画されなど、建築家と市民との接点をさらに広くしていきたいと思っています。

建築三会が共同で要請した建築士法改正が 2014 年に成立しました。設計料は告示 15 号を努力目標とする等の改正が 6 月にいよいよ施行されます。東京建築三会では都内各自治体にこの改正内容の遵守を要望していきます。建築家の社会的責務を強めるこのような動きと同時に、発注方式の多様化と称した DB 方式や ECI 方式は建築家の責任範囲、つまりは業務範囲を縮小する動きも出て来ています。このようなコスト面のみを重視したまちづくりは、長期的には市民の生活を豊かにしないということを建築家団体として強く社会にアピールしていくべきだと考えています。

また、若手育成の問題としては、何十万円もする塾に通わなければ一級建築士試験に合格できない現状。一級建築士の定期講習は 3 年前に作成されたビデオ講習が主体となっている等、建築士の資質を確保する現状の制度にも多くの課題があり、JIA もこれら課題に取り組むべきだと感じています。 ((株)山下設計)

文化遺産の国際路線と JIA



副支部長
左 知子

■ 第 3 回国連防災会議が天皇皇后を迎えて 3 月半ばに仙台で開催されたことは、TV や新聞でも大々的に報道された。しかし、実は、国連防災会議のフレームに、文化庁が音頭を取った、国際専門家会合というセッションがあり、品川プリンスホテルで 3 日間開催されていたのは、報道すらされていない。「文化遺産と災害に強い地域社会」というテーマについて、世界各地からの報告や問題点の提示があったのだが、災害という意味はその国・地域によって大きく変わる。防ぎようない災害が内戦とテロであることは、世界情勢の情報を受信していても理解してはいなかったと思った。それにしても 1994 年に第 1 回の横浜での開催、2005 年の第 2 回の兵庫開催に次ぐ、第 3 回目仙台大会の前座で、漸くこの防災会議に Cultural Heritage という言葉が入ったようだ。画期的な会議と文化庁の方々、その成果を振り返るが、そのことにも驚かされる。

この国の政治は、自国の文化にあまりにも消極的である。効率や経済性を基準に制度が作られてきているゆえに、それらの数値に置き換えられない価値は虐げられている。そんな国にあって、日本建築家協会が活着していることは奇跡的でもある。2017 年には、日本建築家協会は設立満 30 年となる。((有)左知子建築設計室)



「文化遺産と災害に強い地域社会」

リストラクチャリング

幹事長
高階 澄人



■「スクラップアンドビルド」という言葉は「作っては壊す」とネガティブな意味で使われることが多いのですが、本来は施設や機構の更新による効率化などを表す前向きな概念です。また「リストラクチャリング」も整理・解雇などダウンサイジングのイメージが強い言葉ですが、これも組織などが環境の変化に伴いその構造を変化させ「再構築」というポジティブな概念です。使い方、受け止め方によって言葉が両義性を帯びるわかりやすい例です。

建築保存の意義や景観について考えるときにも、似たような両義性に悩まされます。旧き良きものを後世に残すか、見慣れぬ新しいものも肯定的に受け容れて更新による作用に期待をするか、また今自分達が残すべきであると考えたものは次代の人々に有益なものであるか、といった具合に現在の価値観に捕らわれない柔軟な態度が大切です。そして変容こそが都市の自然な状態であると考え、必要な新陳代謝や再生をアーバンファブリックの中で行うことはまさにリストラクチャリングであり、良い意味でのスクラップアンドビルドを含め、これを業務としている建築家はその専門家であると言えます。

JIAにとって公益社団法人化はリストラクチャリングの一つの機会でした。しかし一方では会員数減が止まりません。JIAがこれからの社会や環境にフィットする職能団体であるためには既存の価値観に拘泥することなく、望ましい更新を常に続ける必要があります。そのためには若い層での会員拡大と、断続的な「リストラクチャリング」が不可欠だと思います。

二年間、拙いながら幹事長を務めさせていただきましました。ありがとうございました。

〈高階澄人建築事務所〉

翫やかに凛とした姿勢を紡ぐ

副幹事長
鈴木 利美



■ご指導、叱咤、そして、支えて頂いた皆様に深く感謝を申し上げます。支部副幹事長、並びに本部理事、本部広報委員長を務めさせて頂いたことも含めて、言葉を紡ぎたいと思います。

JIAはとても奥が深い。全国で多種多様な事業、活動が、様々な趣旨のもとで行われ、また歴史も古いのだということ、何かを行い、人にお会いする度に感じます。その一方で、ネットワークがうまく組み立てられておらず、勿体ないと思うことが多くありますので、広報他において情報交換、提供に務めてきました。

JIAでの私の活動は若手と呼ばれる頃からであり、叩き上げできたと思っています。‘建築家会館は処士横議の場である’との故前川國男氏の言葉に感銘を受け、‘会費が惜しければ活動を’若輩者。だからこそ発言を’と意識し、今の時代・社会を掴み、未来を気に留め、若手の思いを想像しながら発言、活動、事業を行ってきました。建築に限りませんが、世の中は変わるのではなく、変えようという気持ちが大切。

グローバル、且つ、ローカル。主観、且つ、客観、等々の要素対立を越えていくのが、様々なカテゴリー、階層において有効で重要な概念、意識であり、厳しい建築業界における個人、JIAのあり方のキーワードになると考えます。縦横無尽に糸を絡めて広く強く、細やかにたおやかに凛とした姿勢を紡ぐ、そんな感じでしょうか。

自身を顧みれば、若手ではなく既に中堅。今後は、建築設計・監理業務を軸にしながらも、より柔軟に世界を広げていきたいと考えています。

〈ダンス建築研究所〉

公益=コミュニティアーキテクトの意識

副幹事長
連 健夫



■2014年度は、支部常任幹事会、役員会、本部理事会、建築まちづくり委員会、地域会などJIAの活動に多くの時間を使うことになり、自分の設計業務とのバランスをとることに苦慮することもありました。しかしながら、この中で色々見えてくるものがありました。JIAが公益社団法人となり、公益の意味合いが会員の意識の中に広がってきていること、建築家の職能団体と地域との関わりについて、公益という軸で捉える気運が出てきているように思いました。一方、時代の変遷を捉えることができず、古典的建築家像に固執する姿勢や、新しい動向に抵抗する状況も垣間見ることもありました。言い換えればパラダイムシフトにおいて建築家の職能が拡がる中で、それをフォローできない状況摩擦です。必要なことは、従来の建築家の役割のみならず、地域に関わる中でコミュニティの形成、良質な建築や美しいまちづくりをするコミュニティアーキテクトの役割の理解と変容と言ってよいかと思えます。ここには他の立場を理解し、他の意見を活かすファシリテート能力や理想や理屈のみにこだわらず現実的に物を動かす能動的で柔軟な態度と、実務能力が求められます。この意味で、役員会や地域会サミットなどで、全体のコンテクストを考えずに批判のみをされる方が散見され、その場を創造的な場にできない残念な状況もあり、意識づくりが必要であると感じました。つまり、公益=コミュニティアーキテクトの意識づくり、ということかと思われまします。来年度は幹事長を務めることになりました。その意識づくりへ微力ですが貢献できればと考えております。

〈(有) 連健夫建築研究室〉

総務委員会

委員長：左 知子



■昨年度の総務委員会は、公益化移行に伴う諸制度の整理に開始したが、今年度は、それらのブラッシュアップと、財務的な整理に手を付け始めた。規則を遵守の中でも、それらがより効果的に履行されるための方法を検討・実行した。オリエンテーリングを受けた新会員の全国大会参加への助成については、今年度は3名の方が助成を受けた。今後もこれは続けていきたい。若い会員が全国の会員と連携をとれるようになることは素晴らしいことだ。一方、財務的には、会員の減少が深刻な問題であると受け止め、増員のためのWGを設置し、準会員召集の新たな方法を探採しようとしている。

また、現在の会員の方々の充実感達成のための具体的な提案を始めたいと考えている。正会員あつての準会員であることを重々認識し、また現会員の方にも次年度以降の支援と協力をお願いしたい。

〈(有) 左知子建築設計室〉

広報委員会

委員長：高橋 隆博



■会員相互の情報共有とコミュニケーションおよび市民への情報発信を主眼に、「会報誌 Bulletinの編集及び発行」「ホームページの運営」「会員向けメルマガの発行」を行っています。広報誌は「Bulletin」6冊+アニュアル号1冊を発行。表紙デザインを一新、新企画やホームページ連動のコンテンツを開始したり、幅広い読者への配慮から紙面の活字も大きくしました。また、タイムリーな情報は毎月メルマガにて会員に配信する一方、ホームページでは2つのサイト（会員向サイト、市民向けサイト建築家ONLINE）の各種情報やコンテンツを毎月更新しながら、トップページの全面リニューアルをはじめ新企画のリリースや既存コンテンツの改訂など、市民に解り易い改良を重ねました。

〈(株) アトリエ秀〉

建築相談委員会

委員長：柴 和彦



■関東甲信越支部地域会相談室は5ヶ所の相談室で一般市民の身近な相談窓口として、66名で無料相談対応しております。

本年度の相談件数は以下の通りです。()の数字は昨年度の数字です。2014年度の相談実績は下記の通りです。

建築相談室	一般相談	トラブル相談	相談件数	現地調査数
首都圏	85 (69)	238 (242)	323 (311)	45 (40)
神奈川	7 (13)	65 (68)	72 (81)	2 (3)
千葉	1 (18)	3 (16)	4 (34)	0 (2)
埼玉	10 (2)	76 (60)	86 (62)	2 (8)
群馬	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	103 (102)	382 (386)	488 (497)	49 (48)

488件の相談の内103件が一般相談、382件がトラブル相談でした。今年度もトラブル相談が約80%弱占めております。これを受けてセミナーWGでは昨年度は「トラブルを未然に防ぐために」シリーズのセミナーを継続開催し、広く一般市民に対して呼び掛けを行い注意喚起しています。委員会活動は、月1回地域会相談室長と7WG主査で開催し諸問題に対して協議を行い決議しています。

〈柴建築設計事務所〉

保存問題委員会

委員長：安達 文宏



■保存は未来への創造である

第23回保存問題長野大会は、2014年2月15・16日の開催が大雪のために中止となった。しかし、年内に実施したいとの長野地域会の“熱き想い”で、同5月24・25日の開催が実現した。市民・行政・会員等で延べ130人を超える参加者があり、成功裏に終わることができた。これを教訓に、2015年度第24回保存問題東京大会は5月23・24日に開催することとなった。また、保存活動の一環としての要望書提出については、①三原橋センター②武井武雄生家③旧三井物産横浜ビル・倉庫④中野サンプラザ⑤日本橋野村ビルディング⑥新潟市旧會津八一記念館⑦九段会館⑧旧豊多摩監獄正門⑨旧文化学院校舎アーチ部分⑩旧鎌倉町立図書館などに関し行ったが、提出までには至らなかった「ホテルオークラ東京」や「津田ホール」などもあった。今までの活動内容を精査し、今後に活かすべく、「運営ガイドライン」の見直しを行っているところである。〈安達文宏建築設計事務所〉

苦情対応委員会

委員長：篠田 義男



■苦情対応委員会は、建築主や市民からの本会会員が設計した建物や、会員に係る苦情を扱う公益法人として重要な組織です。公益社団法人への移行に伴い、より公正な立場で活動する為、総務委員会委員長、相談委員会委員長を含む9名の専門的な知見をもった委員で活動してきました。

本委員会は、市民からの苦情がないことが望ましい状態ですが、本年は昨年度に引き続いて苦情が寄せられました。一般的に苦情の内容が相談委員会による建築相談の範囲を超え、苦情申立人が会員に対する苦情として明確に要望される場合、本委員会での扱いになりますが今回の場合もそのケースになりました。

本委員会の中に、寄せられた苦情に対する専任のWGをつくり、可能な限り当事者間での円満な解決を目指しますが、必要に応じ顧問弁護士との助言も得ながら対応活動を行っています。今後益々拡大する建築家の活動に伴い、建築家に対する苦情も複雑化する事が予想され、委員会としての対応方法の検討や、会員に対する広報活動もさらに充実させてゆきます。

〈(株) 篠田義男建築研究所〉

支部建築家資格制度委員会

委員長：近藤 昇



■当委員会は新規登録建築家申請、更新申請、再登録申請の書類審査と更新要件等を確認した上で、支部認定評議会への審査資料作成を行っています。各審査と確認は委員のダブルチェック以上で行われ疑問点は委員全員で討議を行って結論を求めています。2014年度は新規登録者2名、更新対象者222中176名が確定しました。再登録者はおりません。更新申請者の内14名は申請時に要件が満たされていませんが、手続き期限までに満たされた場合は委員会が確認の上、更新を認めるものとして支部認定評議会を経て本部認定評議会に報告提出されます。当支部では正会員1978名中723名(2015年3月現在)しか登録されていません。現在「正会員ルート実現に向けて」として新しい登録建築家制度が検討されています。登録建築家はUIA基準に沿った形での建築家コードです。多くの方々に登録していただきたいと思ひます。

〈近藤総合計画事務所〉

クライアント支援委員会

委員長：大川 宗治



■クライアント支援委員会の主な活動は、「建築家に会おう - アーキテックツファイル -」の運営です。このシステムに寄せられた相談件数は、1年間で、住宅のリフォームが1件、マンション大規模修繕が2件、店舗が1件で、合計4件と例年に比べて少ないものでした。そのうち契約に至ったのは、マンションの大規模修繕が1件のみです。これは、JIA という全国的な規模の組織の窓口としては、かなり寂しい結果といえます。その対策の一つとして、JIA の窓口としての信頼性を向上させるとともに、登録建築家の広報としての役割を担うために、登録建築家＝アーキテックツファイルのメンバーとすることを委員会で決定し、支部に提案済みです。他の解決の方法として、今後は、より広報的な活動が必要であるとして、対談イベントや出版なども検討しています。

〈一級建築士事務所 OM-1〉

都市・まちづくり委員会

委員長：亀井 尚志



■当委員会は、昨年度に引き続き、より良い景観づくりについて議論を行ってきました。その一つとして、建設コンサルタンツ協会 (JCCA) の美しい国づくり専門委員会と、建築、土木が協働してより良い景観をどう作るかという議論を行っています。1月28日には協働のシンポジウム「誰が景観を創るのか」第7回を開催しました。今回は「コラボレイティブデザイン」をキーワードに新進気鋭の都市工学者である東京大学の羽藤英二教授に基調講演を行って頂きました。羽藤先生からは、「今こそ強いデザインを担う人が真剣に考えるべきだ」という心強いエールを頂きました。建築、土木の協働というユニークな取り組みを続けて行きたいと考えています。

〈三菱地所 (株)〉

建築・まちづくり委員会

委員長：連 健夫



■当委員会は、良質な建築、美しいまちづくりのための制度をつくるために、英国のCABEを参考に様々な活動を続けています。月1回のミーティングと共に会員への共有を図るべく、ブルチンに「日本版CABEを考える」の連載をしています。昨年からはオリパラ関連の施設計画における「デザインアドバイス機構」設置活動を関係団体に働きかけをしています。9月の建築家大会2014岡山ではシンポジウム「良質な建築・まちづくりのアドバイス機構を作るためには？」を実施、3月には、松本昭氏を招いて「土地利用の協議調整システムと建築設計・地域空間設計」のセミナー勉強会を実施し内容を深めています。次年度は、他委員会と分野横断的活動を計画しています。

〈(有)連健夫建築研究室〉

災害対策委員会

委員長：中山 信二



■災害対策委員会は、公益性の高い地域に根差した災害対策活動とのミッションを受けて、昨年発足しました。今年度は、応急危険度判定資格に関するアンケートを実施し、都内の自治体の防災担当者への広報活動を中心に活動を行いました。アンケートに対し、災害時だけでなく事前・事後の減災対策や安全なまちづくりに向けたJIAらしい活動も必要とのご意見を皆様から頂戴しました。委員会としても今年度は当面の目標として災害時の連絡網の構築を優先して実施しましたが、次年度に向けて各地域会の活動の実態も把握しながら活動の輪を拡大する予定です。11月下旬に発生した長野神越断層地震では、翌日に長野地域会と連携して現地対策本部を立ち上げ、小川村・白馬村を中心に応急危険度判定並びに被害認定調査の一部を士会とも連携して実施できたことは、来るべき首都直下型地震時の対応についても貴重な経験となりました。

〈中山建築デザイン研究所〉

国際事業委員会

委員長：藤沼 傑



■関東甲信越支部の支部国際事業委員会は本部国際交流委員会から分かれ、2013年11月に設立しました。

2012年に、友好協定を締結した中国上海建築学会には何度か連絡し、共同イベント開催を提案しましたが、返信はありませんでした。イタリア国パルメ市の建築家協会は2011年UIA大会に来日しましたが、2014年の南アフリカでのUIA大会には参加せず、国際活動を縮小しているという連絡を受けました。

2014年7月にグリーンワークショップを開催し、計20名が参加しました。原田英典氏 (京都大学大学院地球環境学堂)、山上遊氏 (LIXIL 総合研究所) から途上国のトイレ事情及び無水循環型トイレプロジェクトについて講義を受けました。その後一般の人も含む3班で持続可能なコミュニティー提案を纏めた。詳しくはBulletin11月号に掲載しました。

〈(株)山下設計〉

環境委員会

委員長：寺尾 信子



■「建築関連分野の地球温暖化対策ビジョン2050」が2009年に建築関連17団体により発表され、その後UIA2011東京大会では「DESIGN 2050」がテーマに掲げられました。テーマの意図は、2050年のあるべき未来像を描き出しそこに向けて持続可能な建築環境や生活の質を「デザイン」していくための道筋を探る、というものでした。実はこれを日々の仕事や暮らしの中で実践してゆくことこそ難しくまた大切で、その普及は環境委員会のミッションと言えます。活動初年度はアーキテックツガーデンにて講演会と見学会 (講師：中村拓志氏)、群馬地域会にて実務セミナー (講師：辻充孝氏・寺尾) を開催し、10都県の地域会との共催による行事企画の手掛かりを得ることができました。今後も地域会との連携を重視し、さらなる地域密着型の活動展開を考えています。

〈(株)寺尾三上建築事務所〉

アーバントリップ実行委員会

委員長：南 知之



■アーバントリップ実行委員会では、会員の建築家としての資質や技術の向上をはかる目的で、見学会を年間3回開催しております。

○昨年度に実施されたアーバントリップの概要

□第75回：8月7日 (木)
「池袋 地域力 教育・文化の一翼を担う建築を訪ねる」
東京芸術劇場 (改修) / 立教大学1号館 (耐震改修) / 東京音楽大学100周年記念本館

□第76回：11月25日 (火)
「秋、世界文化遺産富士山の麓に展開する建築を訪ねる」
倫理研究所 富士高原研修所 / 日本盲導犬総合センター / ほうとう 不動東恋路店

□第77回：3月18日 (水)
「先進医療と癒しのための教育・診療の場に学ぶ」
帝京大学医学部付属病院 / 帝京大学板橋キャンパス大学棟本館 / 成増高等看護学校

〈(株)石本建築事務所〉

建築セミナー実行委員会

委員長：福島 加津也



■今年のテーマは、建築の「進化と拡張」、副題を「現代の建築を考える手がかり」とした。

受講生は28名、実行委員は委員長を含め10名。そして、例年通り多くのOBに助けられた。年間を通してのプログラムは以下の通り、8プロジェクト計22講座で構成した。

- 暮らしから考えるパブリック・ハウジング
- メディアと建築 その伝え方の技術
- エンジニア魂と明日への環境デザイン
- 広島・福山の建築 地方都市の可能性
- 住いの原点としての小屋
- コミュニティのとりえ方、つくり方
- グローバルなあり方
- The Japan「日本のおもてなし空間」

登壇者は各テーマを進化している方と拡張している方をお願いし、対比軸を明確にすることでテーマを多方向から理解することを試みた。

〈福島加津也+富永祥子建築設計事務所〉

JIAトーク実行委員会

委員長：東 利恵



■JIAトークは、日新工業株式会社の後援のもと今年度も4回開催をいたしました。本年度より半数の委員が入れ替わり、講演の企画だけではなく、DMのデザインの見直し、ウェブを含めた広報の活動を広げていくことを勤めています。

第一回はチェロ奏者の朝吹元氏とピアノ奏者の根元英亮氏の演奏でした。第二回は漫画家松本零士氏の講演で、テーマは「子供の頃の思いが、未来を創り、次の世界に繋がっていく」、第三回は彫刻家・現代美術家の名和晃平氏で、「CREATIVE PLATFORM」、第四回は弁護士の弘中惇一郎氏で、「裁判と演技」というテーマでした。

広報もフェイスブックを立ち上げ、また、講演者の関係する分野にも宣伝を広げています。アンケートの見直しや分析、広報活動など、さらに来年度には充実を図っていきたくと思っています。

〈(東環境・建築研究所)〉

学生デザイン実行委員会

委員長：倉本 剛



■第23回東京都学生卒業設計のコンクール2014

昨年度のコンクールは、都内23大学から推薦された卒業設計51作品を集め、5月31日 (土)、6月1日 (日) に開催されました。31日には公開審査が行われ、審査過程を見ようと多くの聴衆を集めました。

審査委員には、栗生明委員長のほか、加茂紀和子氏、西沢立衛氏、鈴木啓氏を迎え、丸一日かけて、金賞・銀賞・銅賞・各審査委員賞・審査委員特別賞のあわせて8作品を選出していました。

〈倉本剛建築設計事務所〉



公開審査の様子

大学院修士設計展実行委員会

委員長：佐藤 光彦



■「大学院修士設計展」は今年13回目を迎える事が出来ました。一昨年よりWEB展を継続しつつ、実際のパネルと模型を展示する展覧会を開催し、建築家の単独審査による審査、講評を行うこととしています。また、2013年度の展覧会の作品と審査およびシンポジウム内容、各大学の研究室紹介をおさめた作品集が総合資格学院の協賛を得て、刊行されました。次年度も、これまで以上に事前周知を充分に行い、本展覧会が学生、大学教員、建築関係者、市民を結びつける活動に発展することで大学院教育に少しでも寄与できればと考えています。会場設営に当たった実行委員及び学生のみなさまの協力には、この場を借りて御礼申し上げます。

展覧会会期：2015年3月13日～15日

於：芝浦工業大学芝浦キャンパス8階

審査会：2014年3月14日

審査員：坂本一成氏

参加大学：24校

出展数：42作品 〈(日本大学理工学部) / 佐藤光彦建築設計事務所〉

アーキテックツ・ガーデン実行委員会

委員長：藤沼 傑



■アーキテックツガーデン2014は6月から7月までの期間に、20のプログラムが開催された。各プログラム報告書から計算した延参加人数は約1000人となる。ブリッカー賞を受賞した坂茂氏の基調講演には177名が参加し、坂氏の災害復興支援等多彩な活動を聞いた。フォーラム環境には132名が建築会館に集まり、中村拓志氏の緑に添う建築空間が紹介された。建築・まちづくり委員会が主催した「新国立競技場とオリンピック施設計画に何が必要か？」も100人以上の参加者を集め、第三者がアドバイスできるシステム構築が急務である事が浮き彫りになった。このように今回は100名以上の参加者を集めたプログラムが複数あり、アーキテックツガーデンを通して、建築関連の課題について多くの市民と交流できた。参加人数は20名前後であるが、街歩きなど毎年開催される密度の濃いプログラムも継続されており、市民との交流を通じ、建築家はともだちという意識が少しまた広がったと感じている。

〈(株)山下設計〉

支部大会検討委員会

委員長：上浪 寛



■2016年6月に初めての支部大会を開催するため支部大会検討委員会を発足させ、大会開催の必要性、意義を述べた役員会への答申をまとめた。支部ではアーキテクト・ガーデンと保存大会の2事業が、長い歴史と大きな規模を持つ支部事業となっている。毎年6月前後に開催するアーキテクト・ガーデンはネットワーク型イベントとして一定の成果をあげている支部事業だが、一般市民や社会に対して建築家が情報発信し交流の場を提供するというテーマで、特に県単位地域会活動のモチベーション向上に大きく寄与している。保存大会は建築や地域の景観に寄与する社会的文化資産としての建築物の保存活動をテーマに、一般参加を含めて毎年100名以上の参加者がある大きな支部事業だ。公益活動として意義深い事業だが、支部の多くの会員が毎年楽しみにしている共益の側面もあり、10都県にまたがる関東甲信越支部にとって、このような会員同士の交流の場は重要だと考える。会員や一般市民が持つ建築に関連した関心も多様化しており、複数のテーマを挙げた大会の可能性を探ってみる時期ではないかと考えた。挙げられたテーマに関連する委員会や部会が参加する支部の実行委員会が中心となり、開催地と役割分担することで開催地の負担軽減も見込まれ、継続的な大会運営に貢献すると考えている。近年アーキテクト・ガーデンはネットワーク型イベントとして23地域会全ての参加を促すことができているが、アーキテクト・ガーデンと支部大会を連携させることで支部全体の参加意識が高まり、身の丈に合った規模の大会開催が可能だと考えている。今後は実行委員会を中心に事業を進めるが、さらに支部役員会でも議論していく。支部役員が積極的に議論に参加する空気が作れば、関東甲信越支部10都県の大きな力になると考える。

〈(株)構想建築設計研究所〉

交流委員会

委員長：渡邊 顕彦



■主な活動として、9月25日に開催された“JIA 建築家大会2014 岡山”“法人協力会サミット”に22名が参加。支部によって正会員との関わり方の違いが明らかになり、来年度はさらに踏み込んだ議論になることが期待されます。10月24日には昨年とは場所を変え泉カントリーで“フレンズカップ”を開催しました。昨年同様約70名の参加者となりました。3月24日の“交流大会”では、市川宏雄教授をお招きし、“2020五輪と東京の都市計画”をテーマに大変興味深い講演をして頂きました。

最後に、昨年も報告しましたが、改正された会員規程によって、構造系、設備系の正会員の新規入会が難しくなりました。そのため、これらの業界の法人協力会員はJIAで活動を継続して行くことが難しくなっています。JIA全体として考えなければならない重要な問題です。

〈(株)三菱地所設計〉

委員会一覧 (2014年度)

● 総務委員会	委員長：左 知子
● 広報委員会	委員長：高橋隆博
● Bulletin 編集 WG	編集長：八田雅章
● ホームページ WG	主査：植木健一
● 建築相談委員会	委員長：柴 和彦
● 首都圏建築相談室	
● 神奈川建築相談室	
● 群馬建築相談室	
● 埼玉建築相談室	
● 千葉建築相談室	
● 保存問題委員会	委員長：安達文宏
● 苦情対応委員会	委員長：篠田義男
● 支部建築家資格制度委員会	委員長：近藤 昇
● クライアント支援委員会	委員長：大川宗治
● 都市・まちづくり委員会	委員長：亀井尚志
● 建築・まちづくり委員会	委員長：連 健夫
● 災害対策委員会	委員長：中山信二
● 国際事業委員会	委員長：藤沼 傑
● 環境委員会	委員長：寺尾信子
● アーバントリップ実行委員会	委員長：南 知之
● 建築セミナー実行委員会	委員長：福島加津也
● JIA トーク実行委員会	委員長：東 利恵
● 学生デザイン実行委員会	委員長：倉本 剛
● 大学院修士設計展実行委員会	委員長：佐藤光彦
● アーキテクト・ガーデン実行委員会	委員長：藤沼 傑
● 支部大会検討委員会	委員長：上浪 寛
● 交流委員会	委員長：高橋隆博

デザイン部会

部会長：山本 想太郎



■2013年度から掲げる部会活動テーマ「アートと建築」を継承し、多彩なゲストを招いて、建築とアートを比較しつつそれぞれの表現の本質や問題点を探っていくシリーズとして、以下の2つの公開イベントを開催しました。

「写真と建築」シンポジウム (パネラー：鷹野隆大 (写真家)、① 小川重雄 (建築写真家)、山本想太郎 (建築家))。

トークイベント「ウィリアム・モリスと現代」(パネラー：② 川端康雄 (イギリス文化・文学研究)、大倉富美雄 (建築家)。日本デザイン協会と共催)。

〈山本想太郎設計アトリエ〉



「写真と建築」シンポジウム

都市デザイン部会

部会長：鈴木 和貴



■建築を「まち」から考え、「まち」を建築と市民の中で捉え議論し検証した一年でした。部会の基本姿勢である、3F (Flat / Flexible / Familiar) のもと、参加された方には都市デザインを、建築家としてだけでなく一市民としても捉える機会であったと思います。セミナーや研修旅行を通しての経験は、新しい諸相を知る機会であり、諸先輩や地域で活動される方々との交流も含め、充実した時間でした。

〈PAX建築計画事務所〉



大多喜町役場にて



平賀氏による講演

住宅部会

部会長：林 秀司



■公益活動と部会員へのサービス提供が活動の中心

今年度は1.公益活動(市民向け活動) 2.部会員の資質向上と情報交換の充実 3.開かれた部会の3つのテーマを掲げ活動を行いました。公益活動として対市民向けの住まいセミナーを計23回開催、また、部会員向けとして毎月行なわれる「住宅部会の日」では設計の実務、3.11災害の実情、環境共生住宅、部会員によるまちづくりの実例、建築家の役割等のテーマでトークイベントを6回、その他に千葉県大多喜町役場等の見学ツアーや賛助会員企業のショールーム見学会を実施しました。昨年度からスタートしたフェイスブックを利用した情報発信では、部会通信との連携強化、イベントへの参加受付など双方向性の活用など開かれた部会として情報交流の充実をはかってきました。12月には来年度迎える住宅部会発足40周年を盛り上げるためのプレイベントを実施し、来年度の活動への期待感が高まったと感じました。

〈(有)アトリエ塊一級建築士事務所〉

メンテナンス部会

部会長：宮城 秋治



■アベノミクスが功を奏して景気が上向きはじめ、2020年の東京オリンピックも招致が決まって、建設業界は再び沸きはじめられています。見積ってくれる施工会社も集まらない。見積ってもらっても強気の単価と膨らむ人件費で不調に終わる。工事が始まっても資材が届かない。職人を確保するのに苦労する。そんな状況のなかで、修繕や改修といった手間がかかって手離れが悪い仕事が回避されて新築工事を嗜好する風潮も生まれつつあります。こんなときこそストックをメンテナンスしていく意義と重要さを世の中に訴えかけていきたいと思います。かつてのパブルの時代に躍らされずに粛々とメンテナンスの道を切り開いてきた先人たちの姿勢に「たちもどる」が必要になっているのです。部会のセミナーでは継続して耐震改修や設備改修、大規模修繕工事などメンテナンス部会員からの事例報告と意見交換から改修技術の研鑽に努めてきました。建替ではなくて改修によるマンション再生の道筋が見えてきました。

〈宮城設計一級建築士事務所〉

住宅再生部会

部会長：大沢 悟郎



■住宅再生部会は住宅の再生を理解する人なら誰でも参加自由とし、原則隔月に1回、研究会・事例発表セミナーを行っている。活動の指針としては、建築のライフサイクルを見直し安全で、長寿命、省エネルギー、環境を保全しながら建築の工法・技法等を考え、再生可能な建物・部材等の利用を通じて、スクラップ&ビルド型の社会構造を転換していくことを目的としている。

2014年度は特に「空き家」をテーマとして活動してきた。800万戸以上ある空き家をどう活かすかは今、われわれ建築家に与えられた課題の一つであり、住宅再生がはたす役割はますます重要となってきている。

来年度も建築家に役に立つ事例紹介などをメインに情報交換、研究会の場とし、一般市民に向けた活動を模索するとともに、一建築家として住宅の耐震化を含んだ空き家再生などを通して、よりよい建築環境づくりに取り組む予定である。〈大沢悟郎建築アトリエ〉

情報開発部会

部会長：天神 良久



■情報開発部会は法人協会員Gグループと合同で、月に1回の部会・勉強会・年2回の見学会を開催しています。主なテーマはIT系(CAD、CG、情報通信)と、時の技術動向に関する勉強会が中心です。2014年度の勉強会は、「既存建物三次元測量方法と三次元データ利用方法」「オフィスサーベイ+知的生産性指標の分析」「PCデータのバックアップについての意見交換会」等々を行いました。PCデータのバックアップは身近の関心事でしたので部会以外からも多くの皆さんの参加を頂きました。また、現場見学会は、アーキテクト・ガーデン協賛イベントとして7月に「国立近現代建築資料館見学会」を実施しました。新規会員も随時入会可能です。



国立近現代建築資料館 見学会集合写真

〈(株)ケー・デー・シー〉

建築交流部会

部会長：観音 克平



■建築交流部会は、「建築」を通じてさまざまな交流を図ることを目的として活動を行っています。

2014年度は、活動の中心のひとつである「建築見学会」を中心に、「国立国会図書館」の見学会も実施しました。事前のトークセミナーとしての、中田氏に聞く前川國男の設計監理（1回～3回・部会HPにて動画公開済み）に続く一連の活動で、深く楽しく見学することが出来ました。また、「銀座・昭和レトロビル探訪」（部会HPにて動画公開済み）、「葉山・加地邸見学・レセプション参加」などを展開してきました。「建築家のメモ」展については、500点に上る保存パネルの活用も含め、次の展開について調整を行っており、今後にご期待いただきたいところです。

今後も部会員相互の積極的な「交流」を中心に、JIA会員、非会員にかかわらず、広く交流の輪を広げる活動を目指しています。皆さま方の積極的なご参加をお待ちしております。

〈アトリエ・アーキボスト〉

建築家写真倶楽部

部会長：藤本 幸充



■アーキテクツガーデン 2014 建築祭に参加。6月26日 JIA 館、建築家写真倶楽部に写真家飯田鉄さんをお招きし『街並み、建築写真の再現、そしてカメラという厄介な魔法の暗箱』と題したセミナーを行いました。総合司会：大澤秀雄 聞き手：兼松絃一郎+大澤秀雄 出席 30 数名。飯田さんは、ご自身が取りまとめた「建築並びに都市の景観写真略史」と題したペーパーをテキストに写真の変遷を映像で映し出し、建築やまちの変遷と、撮る写真家と撮った写真とが深い関連性の中で時代が動いてゆく、そのことを浮かび上がらせました。当日出席の女性からは「写真の歴史を150年以上さかのぼって話されたことに素人でありながら興味津津でした」との意見もいただき参加者に深い感銘を与えました。今年もアーキテクツガーデンで新たな企画を開催します。

撮影：T. Kirihara

〈(株)鎌倉設計工房〉

再生部会

部会長：柳沢 伸也



■2014年度は、東京弁護士会歴史的建造物部会と共同で立ち上げた「既存建物を使い続けるための諸制度見直し研究会」を中心に活動し、建築基準法をはじめとする建築関連法規の検討会や、京都、神戸、横浜などへの現地調査やヒアリングを行いました。特に京都研修では、数々の事例に直接触れることができただけでなく、JIA近畿支部の保存再生部会メンバーと交流を深めることができました。

また、12月には公開研究会として、行政担当者や東京弁護士会歴史的建造物部会から法律の専門家を迎え、既存建物の活用を促進する建築基準法第3条1項3号の「その他条例」の可能性について熱い議論を交わしました。予想を超える来場者数には、既存建物の保存活用に関わる法制度への関心の高さを再認識しました。

2015年度は、こうした活動のまとめと報告会を行う予定です。今年度も会員の協力により、実り多い活動が実施できました。新たな会員のご参加を多数お待ちしております。 〈やなぎざわ建築設計室〉

ミケランジェロ会

代表：富安 秀雄

執筆者
事務局 阿部一尋



■2回のスケッチ会と展示会を行った。4月24日に新宿区神楽坂でのスケッチ会、11月27日に世田谷区用賀の砧公園でのスケッチ会はそれぞれ8名が参加した。神楽坂では毘沙門天善国寺、石畳に料亭が並ぶ路地、日仏会館などを描いた。砧公園は昔ゴルフ場だった広々とした園地で紅葉や世田谷美術館をスケッチした。5月24日から6月7日の2週間、新宿西口広場に面するプロムナード・ギャラリーにての展示会は絵画、写真、



スケッチ会

書など14名、46作品を展示した。

砧公園スケッチ会の後、珈琲店で作品の講評会を行い、次いで居酒屋での反省会へと続いた。〈一級建築士事務所みらい〉

金曜の会

部会長：稲垣 雅子



■2009年4月にJIA会館活用委員会の一環として、大字根さんが中心となって設立された金曜の会は、表彰委員会の文化交流クラブ活性化部会を経て、2014年11月に関東甲信越支部の部会として承認されました。年度途中での変更ではありますが、トークイベントを中心とした活動は予定通りに遂行しました。

4月 始まりから、少し先のことまで。原田 真宏氏

5月 アートの視点の空間発想 郡 裕美氏

ル・コルビュジェ 世界遺産リストへの共同推薦 山名 善之氏

7月 劇場は進化するのか？ 小杉 省三氏

9月 地球のひかり、都市のあかり 東海林 弘靖氏

10月 アアルトの空間 水島 信氏

11月 スタンダードを疑うことから始める 東 利恵氏

1月 先端技術による伝統の創造 木内 修氏

2月 不揃いの木を組む 小川棟梁

3月 外濠再生構想をめぐって 宇野 求氏

〈Fallinglight〉

■部会一覧（2014年度）

●デザイン部会	会長：山本想太郎
●都市デザイン部会	部会長：鈴木和貴
●住宅部会	部会長：林 秀司
・市民住宅講座 WG	
・暮らし・住まい・環境 WG	
・規約検討 WG	
・安全・防災 WG	
・木構造 WG	
・住宅というものづくり WG	
●メンテナンス部会	部会長：宮城秋治
●住宅再生部会	部会長：大沢悟郎
●情報開発部会	部会長：天神良久
●建築交流部会	部会長：観音克平
●建築家写真倶楽部	部会長：藤本幸充
●再生部会	部会長：柳沢伸也
●会員部会	
ミケランジェロ会	代表：富安秀雄
●金曜の会	部会長：稲垣雅子
●学芸祭部会	部会長：奥山陽子

神奈川地域会（JIA 神奈川）

代表：飯田 善彦



■2014年度地域会活動報告

2014年4月代表就任にあたり、「Think Local Act Global」を主題に6つの研究会を立ち上げました。当時私自身関心があった、横浜中心部に関わる「横浜新市庁舎」市庁移転後の「関内、関外」すでに老朽化を迎え崩壊の危機に直面する、横浜中心部の風景を作ってきた歴史的商住混合 建築である「防火帯建築」都市周辺部に広がる「団地、郊外居住」神奈川全域を対象とし、地域特有の諸問題を収集し共有する「神奈川ネットワーク」建築家と市民を双方向でつなぐ「デザインレビュー」です。それぞれ JIA メンバーに限定せず人材を招集し議論を重ねています。発足後すぐに横浜市と、都市、まちづくり、建築に関する「包括連携協定」を結び、行政と相互に協力してこれからの都市問題に向かう土儀も用意されました。この途中成果は、2月末に行われた横浜建築祭でのシンポジウム、展示、デザインレビュートライアル等に反映させ、次年度への期待につなげています。今年度も研究会に限らず様々なアイデアを実行していきたいと考えています。 〈(株)飯田善彦建築工房〉

千葉地域会

代表：櫻井 修



■新たな活動への積極参加

新たな活動体に移行し1年が経過しました。地域会費の追加納入に伴い正会員数は減少しましたが、会友、協力会員数は減少することなく「意志ある会員」による活動が実施されました。運営費も拡大し、慢性的な赤字も解消される見通しとなりました。各会員の理解と協力に感謝します。一方で、新会への正会員の所属推進、活動への積極参加の仕組みの再構築、会費の軽減等が求められています。

2014年度も第12回研修旅行、建築相談会、第12回百科講習会、第27回建築学生賞、第3回建築展、第3回要望書の提出（県内54自治体）等を通して、会員の資質の向上、市民や他団体との連携が増進されました。これらは定期活動として定着した観がありますが、時々々の社会状況に対応する柔軟な運営が求められます。

今後、セミナー、見学会の定期的開催推進に加え、新たな活動として、行政との連携による委託調査・研究、資料作成、各種委員派遣等が予定されていますので、各会員の積極的な参加を期待します。地域会活動は公益団体としての活動が基本となりますが、各種活動は会員の職能の社会認知と業務環境の改善に繋がる必要があります。会員個々の資質の研鑽に努め、本会の特質を活かしつつ県建築設計6団体連絡協議会や市民団体との連携を深め、複合的で広範囲な活動を展開します。

〈桑田建築設計事務所〉

埼玉地域会

代表：鶴崎 健一



■2014（平成26年）年度事業報告書

埼玉地域会では、2つの事業活動を行っています。まずは地域（埼玉）社会にどのような発信をして行くかの研究で自ら発案し活動推進をする「埼玉住文化研究活動」。次に既存の会の活動に参加・協働することで地域に根差し、その交流の中プラットフォーム化、フォーラムの構築の活動をする「他団体協働推進活動」（特別事業）。

1、埼玉住文化研究活動については

私たちに身近な「建築」を地域（埼玉）社会における住文化として位置づけし、「住文化と建築」と「住文化と建築家」の二つの柱により構成をしています。今年度の活動は、古来からある伝統建築を研究している大学院生に「伝統木造建築物の意匠性を維持した構造的な向上手法に関する研究」成果を発表してもらいました。新しい工法が次々と生まれる中、古来の建築は数値化することの難しさがあるが、さらなる研究が進めば既存建築の改修又は新築するうえで新たな見直しができる可能性が期待されます。

2、他団体協働推進活動（特別事業）

住まいや建築をテーマに埼玉県内外で活動している団体のプラットフォームづくり、フォーラムの構築の為に企画立案、イベントの参加、講師派遣、施設の管理など様々な形で JIA 埼玉は他団体と協働しました。協働した他団体は次の通りです。SMF（サイタマミュージックフォーラム）、ヒアシンスハウスの会、新木場倶楽部（JIA 埼玉法人協力会員が組織）、埼玉県街づくり懇話会、その他建築関連団体、消費者センター、住宅供給公社、県内行政との連携もしました。平成27年度も26年同様さらなる発展的活動をして参ります。

〈(有)ツルサキ設計〉

茨城地域会

代表：河野 正博



■茨城地域会は本年2名の新会員を迎え、建築家として「建築文化の創造・発展のために」又「地域に何を貢献できるか」を模索しながら事業の展開をしてきました。

本年度の主な活動としては、2014年9月28日（日）水戸市の中心市街地での第3回目となる震災復興イベント「水戸まちなかフェスティバル」において恒例となった1/500の水戸市の地形模型に自由に建物を作ってもらい、参加型ワークショップ「みんなで水戸のまちをつくっちゃおう」を開催しました。3回目となるこのイベントですが、今回は開場前から子供たちの行列ができる人気で、昨年の3倍以上の素材を用意し、時間を制限しながらの開催でしたが、イベント終了まで子供たちの列が途切れることなく、最後は作成した建物の模型を張り付ける場所がなくなるほど大盛況でした。

また、本年で8回目を迎える会員の作品展「茨城の建築家展2014」を開催し、建築家のしごとをテーマに13名の会員が作品を展示しました。昨年、「水戸フェスティバル」の中で会員の作品展を開催したところ、多くの市民の皆様に興味をもらい、たいへんな反響があったので、本年は初日に水戸フェスティバルの歩行者天国で展示し、2日目を降をギャラリーでの展示として開催しました。

予想以上に多くの市民の皆様にお越しいただき、地域会会員のPRとともに、JIA及び建築家の存在を身近に感じていただける機会になったと考えています。 〈(株)河野正博建築設計事務所〉

栃木地域会（栃木クラブ）

代表：慶野 正司



■二つの見学会を通して

地域の団体・個人との交流や県内の建築家を志す学生との交流を通しての地域づくり活動が恒例の事業です。一つはAGの一事業として7月に「建築見学ツアー」を学生・会員27名参加で開催しました。ヤオコー川越美術館、ヒヤシンスハウス、埼玉県立近代美術館を巡る埼玉ツアーであり個性の異なる建物と美術館巡りは参加者の会話も弾みました。二つは11月開催の21回を数える学生と会員参加の「スクール in 栃木」です。今年は宇都宮市内に残る洋館付住宅と古い建物のリノベーション事例巡り、そしてワークショップです。宇都宮に軍の駐屯以来将校向けに建てられ今もその趣を表す洋館は街並みに個性を与え、リノベーションで生まれ変わった建物は鼓動の再開を確認し、共に地域の財産として後世に受継ぐ責務を感じた良い見学会となった。

〈アトリエ慶野正司〉



AG ヤオコー美術館にて



スクール in 栃木 洋館付住宅

群馬地域会

代表：曾田 彰



■2014年度、群馬県では6月に『富岡製糸場と絹産業遺産群』が日本で初めての近代産業遺産としてユネスコ世界遺産への登録がなされ、12月の富岡製糸場の国宝指定とあわせて、地域の歴史的な文化遺産が注目され、その活用への機運が市民のなかでも高まりました。群馬クラブでは、10年前の2004年に富岡製糸場を始めとした近代化遺産に焦点をあてた『保存問題大会2004in群馬』からの流れを振り返り、これから10年の進むべき道筋を探り、歴史的・文化的資産の保存と活用と共に新しい未来へと繋がる建築のあり方・まちづくりを考え、建築家の仕事・役割を広く伝えることをテーマに活動を行いました。アーキテックガーデンでは、2004年作成の「まえばし建築MAP」を基に、10年後の今を歩く『まえばし建築めぐり』を。建築展では『〜繋ぐ・つたえる〜』をテーマに会員の作品展・パネルトークとともに、記念講演、座談会を行いました。地域会の枠を広げた交流活動も積極的に進め、建築展では前橋工科大学まちづくりサークル『えん』の展示や世田谷地域会を迎えての活動報告・意見交換会、12月は環境委員会、3月は県内構造設計2団体との共催セミナー、第18回学生卒業設計コンクール、第9回北関東甲信越学生課題設計コンクール、県内建築関連6団体で運営する、ぐんま街・人・建築顕彰会の活動等を行いました。

〈ソダアキア建築設計事務所〉

山梨地域会（山梨クラブ）

代表：長田 孝三



■今年度もまちづくり活動が中心でした。中心市街地の活性化への取り組みでは賑わいを演出するための街路整備の提言や街なかイベント紹介・元気印のお店マップ作りなどを行いました。以前からの継続事業の木造住宅耐震化啓蒙活動は耐震化率向上に繋がったと考えています。この活動は今年度で終了し、来年度は安全・安心環境の整備に向け新たな事業を行う予定です。12回目の開催となる山梨県高校卒業設計コンクールでは初めて公開審査とし、昨年度の受賞者との懇談会も例年通りです。来年度からはより多くの生徒の前での開催を高校から提案され、開催時期等含めて検討しています。研修・見学は昨年度からの木造技術が中心で、中規模木造建築の実例見学を行いました。また、1930年創建の山梨県庁別館の耐震・復元改修の現場見学を行いました。来年度はこれを題材に甲府市に現存する近代建築にスポットを当てアーキテックガーデンの一環として藤森照信氏をお招きして見学会や講演会を行います。見学会は一般参加者や建築設計者等多くの参加を得ることができ、JIA山梨地域会の活動が少し理解されたと感じています。設計協会・協同組合が強い山梨でJIAの独自性を強調した活動を展開していくことが建築他団体に埋没しない道と心得、地域会メンバーの平均年齢が60歳となる中で新入会員を得るために魅力ある地域会にすることの活動を次年度は進めていきます。

〈(株) イズ〉

長野地域会（JIA 長野県クラブ）

代表：山口 康憲



■当会は「職能を通して地域社会に貢献する」ことを目的に毎年活動方針をたて事業を行っています。11月22日に発生した長野県神城断層地震では、本部・支部及び地域会の皆様のご支援をいただきながら応急危険度判定、住宅相談、被災2次調査において延べ57名の支援活動を行いました。他会との連携も含め公益法人としての活動のあり方が問われ、変化する状況の中で会員の意識も高まって行った貴重な体験となりました。5月には2月の大雪で延期された第23回保存問題長野大会が「保存は未来への創造である」をテーマに諏訪・岡谷において行われました。製糸業で栄えた岡谷を中心として近代産業遺産の現状と利活用を考えるという視点は、今後も活動に生かし継続して行きたいと思えます。夏のセミナーは7月にアーキテックガーデン参加行事として長い時間をかけてまち並みの修景事業を継続している小諸市街地のまち歩きを、冬のセミナーは初の県外企画として12月に石川県の輪島市黒島地区と北陸新幹線開通間近の金沢市を訪れました。2月には松本市美術館との協同企画で第9回建築祭を催しました。内藤廣氏、藤森照信氏の講演会と長野県学生卒業設計展及び長野県学生卒業設計コンクールという内容で、今年は例年に増して松本市市民の多数の参加を得て、地域に根ざした活動として認知されていることを実感しました。

〈(株) アーバー建築事務所〉

新潟地域会

代表：小川 峰夫



2014年度事業計画に基づき、以下の活動を実施した。

■第16回大学卒業設計コンクール／県内4大学から12作品が参加した。特別審査員にJIA新人賞を受賞した長田直之氏を迎え、約120名の聴衆の前で公開審査を行ない、各賞を選定した。なお審査会の間に長田氏の新人賞受賞作を中心とした近作のミニセミナーを実施した。

■第18回JIA新潟クラブ建築セミナー／今回のセミナーは、国内のみならず、海外での評価も高い建築家・三分一博志氏を講師としてお招きした。講演では、氏の初期作品から近作までを紹介して頂き、その背景に一貫してある地球環境の視点、さらに空気や水を「動く素材」として捉える思想などを分かり易く解説して頂いた。今回は初めて長岡市で開催し、県内全域、近県から170名の参加があり盛況を博した。

■第10回学生課題設計コンクール新潟県内発表会／県内の建築系教育機関（高校、大学、専門学校）から約80名が集まり、新潟工科大学で開催された。このコンクールはJIA北関東甲信越学生課題設計コンクール2015に推薦する作品を選ぶ予選でもある。

■第9回北関東甲信越学生課題設計コンクール／審査員による作品パネルと模型の読み込みの後、投票により上位得票者を確認し、その後審査員の議論により各賞を決定した。審査会前日には手塚貴晴特別審査委員長による講演会が行われた。〈(有)アーキセッション〉

中野地域会（中野クラブ）

代表：安達 治雄



■建築文化向上のための市民交流を長期的視野で模索する活動

今秋も、事務所協会中野支部との共催でバスツアーを実施した。「区民と建築家で秩父の街並みを見学する」と銘打ち、独自の歴史・産業、景勝地である自然環境、建物の佇まい・街並み、三要素の不可分な関係を見学。秩父まつりの資料や映像から、まちづくりにおいては世代間の交流による郷土（地元）意識の継承が不可欠であることを確認。なお年度末に別途、区民参加まち歩き「神田川・環状七号線地下調節池見学会」も実施した。

■子供に対する、建築への興味・理解を高める活動

今年度は 新宿区立落合第六小学校で、細い木材とジャンボ輪ゴムによる「こども空間ワークショップ」を実施した。次年度からは、ワークショップの訴求力のリフレッシュも模索したい。

■「震度・耐震等級・等」の理解を深める勉強会

2回に渡り、構造計画研究所の高橋治氏を招聘して、表題の勉強会を公開形式で行った。そのレジュメは Bulletin ならびに支部のホームページに掲載済。

■その他

支部長、保存問題委員会と連名で、8月に「中野サンプラザの活用要望書」を中野区長に、12月に「旧豊多摩監獄正門の保存に関する要望書」を法務省に、それぞれ持参・提出・説明した。ともに地域のランドマークであり、特に後者は政治犯・思想犯が収容されていた時代背景の生きた第一級の史料である。

〈(有) ASCO.partners〉

三多摩地域会

代表：高田 典夫



■まちやすまいをあらためて見直す

三多摩地域会の主要な活動である「空間ワークショップ」には、いくつかの意味があるが、ベースは、自分たちの住んでいるまちに関心を持ってもらいたいということで、結果として、「住まい続けるための」まちづくりを担う「ひと」を育てることに寄与していると思っている。今年度は、今まで実施していた武蔵野市・八王子市に加えて、多摩市の市立小学校でも実施することができた。三多摩地域会は、広範囲にわたるエリアを対象としているため、それぞれの会員が関与している地域で「その地域に根ざした」活動を行なっていて、会としては、それらの活動に対するサポートを行なうこととしているが、この空間ワークショップの活動エリアが広がることで地域の中での建築家の存在を知らしめるとともに、地域とのつながりをますます深めていくものと確信している。

〈アトリエエテン・実践女子大学〉



親子と一緒に・・・



みんなの前で発表

杉並地域会

代表：林 美樹



■昨年も土曜学校を活動の中心に据えています。年間テーマは「暮らしを支える建築を巡る」とし、「青木淳さんと見る、大宮前体育館」では設計者の青木淳さんにお越し頂き、竣工したばかりの大宮前体育館の説明を受けながら見学しました。この回は91名の参加者がありました。その後も「曾根幸一さんと見る、鉄道高架下施設」、「中山茂樹さんと見る、浴風会」、「青木茂さんと見る、旧杉並中継所」といったように、区民とともに様々な機能の建築を見学しつつ、専門家の話を聞き意見交換を行いました。

また、『土曜学校の記録』の第2弾、2011年から2013年の3年分を冊子に編纂し、3月発刊いたしました。その他の活動としては、角館、北秋田の遺跡を巡るツアーや、若手や地域活動をしている人たちとの交流をはかることを目的に交流会を始め、会員の自宅でもBBQ、会員が管理している千葉の茅葺きの民家にて合宿を行いました。



浴風会本館の見学

また、3年目となる杉並建築会の大会として、防災まち歩きとこども空間体験イベント及び懇親会を行っています。

〈(株) Studio PRANA〉

新宿地域会

代表：大野 二郎



■2014年度は、新宿区や区民との連携やJIA会員の掘り起こしを中心に活動を行った。新宿建築百景マップ作りでは毎回参加者が増えその結果参加JIA会員の増加がみられた。新宿区の居住・勤務している“新宿に縁の有る建築家”シリーズ第2回として「建築のコモナリティ7/15」(アトリエ・ワン塚本由晴・貝島桃代)を開催し、今後JIA会員の裾野拡大と若い建築家の参加を目指している。また、新宿区内の建築三会活動に向けて、東京建築士会と新宿支部設立にむけた懇談を行った。「新宿・建築百景マップ作成WG」活動として5地域街歩きを逐次開催し、印刷に向けた活動を行った。定例会では「ワイン会」(堀川ソムリエ・下田ワイナリー)を開催、「新宿の地形と歴史・文化」(早稲田大学松本研究員)について講演を行った。行政とは小倉利彦議長・新井都市計画部長(5/27)と外堀景観・



ワイン会

防災対応について懇談、さらに吉住健人区長(2/5)とJIA活動および建築三会活動の方向性について懇談した。

《(株)日本設計》

城東地域会

代表：岸 成行



■保存問題東京大会が2015年5月に開催される。その大会に向けて、2014年の活動はスタートした。メンバー各自が「未来へ継承したい環境・景観・建造物・建築物」のリストを作成した。城東地域は震災と戦災で甚大な被害を受け、明治、大正、戦前から残る建築物は少ない。しかし、その対象を少し掘り環境や景観までを考えると、未来へ継承したいものは沢山ある。これまでに3回、「再発見ツアー」を開催した。一般区民と地域会メンバーでリストアップされた建物や風景を訪ねる町歩きである。それは、保存や景観へのそれぞれの思いについて共感や相違を見つけ出すことにつながる。今後も継続して開催を予定する。また、中央地域会と子供空間ワークショップを共催した。これも継続的な活動である。さまざまな形で地域や区民へ広がる活動を続けていきたい。

《(有)岸総合計画研究所》



再発見ツアー(第1回 両国・蔵前)



再発見ツアー(第3回 谷中・上野)

文京地域会

代表：野生司 義光



■文京建築会 つながりある活動

文京地域会では、建築士会と建築士事務所協会の文京支部と連携し[文京建築会]を立ち上げました。これまで以上に職能の向上を目指すとともに、会員相互の交流をはかり、建築家の目を通して、より良い「文京らしさ」の醸成に寄与すること、地域に貢献することを目指し、区民、行政とともに、様々な活動を展開しています。

●文京区見どころ・絵はがき大賞

文京区には多くの「美しい自然景観」や「優れた都市景観」が存在します。そうした魅力を「手作り絵はがき」を公募し、優れた作品を選び、表彰。行政とも協働し地域の人のつながりある活動の場としています。

●文京コース

若い人々(文京コース)を仲間に募り、新たな視点からもまちづくりに参画しています。地域の銭湯を守る活動、「文京塾」と称したセミナーも行い、今年度は香山壽夫さんにご登壇いただきました。「第5回 文京・見どころ絵はがき大賞」も連携し活動しています。

●文京と区との協定

「建築の専門家が文京区の防災対策、復興まちづくり等を支援するための協定」を区と結び、耐震化、災害時の体制づくりや復興までを視野にいて協力を行うものとして、建築士会文京支部、事務所協会文京支部とともに一体となって同時に協定を結び、現在は区との情報交換会を設置し意見交換を行っています。 《(株)野生司環境設計》

渋谷地域会

代表：南條 洋雄



■本年度は、JIA渋谷代表2期目の前半として、引き続き新会員の獲得を目指して活動を行った。参加すれば役に立つ地域会活動の一つ目が「学ぶシリーズ」で、仕事獲得または設計デザインの現場で役にたつ製品等の情報を聞き実際の業務に役立てようとする試みである。4月は「コーポラティブハウスのすすめ」5月は「コンクリート打放しを学ぶ」7月は「ドイツキッチンを知り尽くす」としてそれぞれ専門家からレクチャーを受けた。二つ目は「語るシリーズ」で会員自らが建築家として生きざまを語る会である。8月は元倉真琴氏、10月は高俊民氏の語る会を、さらに1月新年会特別企画として横河健氏の講演会を建築家会館大ホールで開催し、地域関連の行政や設計関連の方々80名余に出席いただいた。

また9月に「代官山蔦屋の秘密にせまる」という街歩き+レクチャーを計画に参加した方々の協力を得て行った。

6月には新国立競技場建設に伴う都市景観や風致への影響に関する問題提起を地域会として公に行った。

また渋谷区危機管理対策部からの呼びかけで次年度からの防災ネットワークに参加する事にもなった。

残念ながらいまのところ目標とする会員増強は果せていない。「楽しく役に立つ地域会」とする方向性は正しいと信じて次年度に向けて努力を続けていく。

《(株)南條設計室》

世田谷地域会

代表：小林 正美



■毎月の定例会、小学校WS(山野小、武蔵丘小、松が丘小、千歳台小)東京連携会議参加、地域会サミット参加、世田谷区建築物安全安心協議会参加、支部幹事会参加、保存問題委員会参加、アーキテックガーデン参加、区庁舎整備報告会参加とシンポジウムの開催、愛する会との連携及び街歩き、群馬地域会主催の展覧会参加、川場村研修旅行

《執筆者：事務局 黒木実 / (有)黒木実建築研究所》



毎年恒例になっている小学校でのWS



千代田地域会

代表：篠田 義男



■「総合展」の成功から

地域会設立以来継続して活動してきた、「景観まち歩き」や「千代田区を舞台にした卒業設計展」などを母体に2014年度は初めての試みとして、日常的な活動と新しい研究的なテーマをジョイントさせるワークショップ型「総合展」【パネル展+凸凹街歩き+街歩きワークショップ+ギャラリートーク+千代田区を舞台にした卒業設計展2014】を開催しました。会場は一般市民も利用しやすい3331アーツ千代田で2015年1月30日から2月1日の3日間に亘り市民参加で開催しました。その他の活動としては、アーキテックガーデン協賛行事の【景観まち歩き】、毎月の例会の中で開催された公開の【メンバースピーチ】、千代田の景観や歴史的な建築遺産などの保存活用を検討する【保存・再生】の為の活動などを行ない、広範な活動の広報の為に【地域会のHP】を公開し、より地域に密着した活動を目指してきた。

《(株)篠田義男建築研究所》



街歩きワークショップ
(担当：市川達夫、桐原武志)



ギャラリートーク(司会 篠田義男)
(総合展実行委員長 太田安則)

中央地域会

代表：石川 雅英



■子どもワークショップ

中央区立城東小学校との空間ワークショップをこれまで計5回開催した。2014年7月は城東地域会と共同で開催。その後小学校から定例化したいというお話を頂き、2015年も7月頃開催予定。

■保存再生活動

中央区晴海通りの歌舞伎座近くに、三原橋という地下街があります。「三原橋を考える市民の会」と共に、三原橋センター解体後の三原橋本体の保存について下記活動を実施した。

・2014年5月 東京都中央区に「三原橋センターの歴史と価値を未来に伝えるための検討委員会」設置のお願いを提出
・計画されている取り壊しの理由確認、保存の正当性について市民シンポジウム(2014年7月)

・法政大学デザイン工学部・陣内教授等との意見交換市民シンポジウム(2014年9月)

■その他

新川、湊、八丁堀、茅場町を横断する河川「亀島川」の水辺空間が美しく蘇生をはじめています。高橋と南高橋の間は、オリンピックに向け親水空間の整備も中央区主体で行われており、主に湊自治会のサポートをしています。

《執筆者：藤沼保 / (株)山下設計》

城南地域会

代表：松本 裕



■城南地域会14年度活動報告

4月早々に総会・月例会の討議を経て14年度の活動に入った。「城南散歩」「アーバントリップ」「城南・ふれあいフォーラム」の3つの活動は継続。極力地域住民の一般参加者に心がける事とした。13年度3月、今迄10回に亘って行って来た「城南散歩」を発刊した冊子「城南散歩」を会員一同分担して品川・大田両区行政並びに地域住民への配布を行った。

本年度の「城南散歩」は一般参加者を得て武蔵野台地末端の南北崖線(東急多摩川~品川御殿山)を距離と高低差を考慮し多摩川~大森、大森~御殿山の2回(7月、9月)に分けて企画実行した。懇親会にて一般参加者から建築家と一緒に歩いていると、素人では到底気がつかない街並の風景、建築の見方等、大変勉強になったとの感想は、我々が企画の段階から一般参加者に期待していた故に苦労が実ったおもいであった。

「アーバントリップ」は11月、1泊2日にて千葉県を選んだ。笠守観音、大多喜町街並と役場、同小学校、御宿町役場、農園、利根川水門、佐原街並保存地区、DIC川村記念美術館、メタル美術館等、県内の広域にある施設の見学は体力をううした。次年度は区民参加を募りたい。

3月「第4回、城南・ふれあいフォーラム」は板橋区常盤台の住民による自主的活動「常盤台しゃれ街協議会」の活動内容を大田区共催、品川区後援にて大田区の施設にて開催した。現在、品川・大田両区の木密地域は1,500haと広大なエリアである。地域住民主体の街づくり協議会が立ち上がってくれる事を切に願って、このフォーラムを継続して行きたい。

《(株)松本建築設計事務所》

城北地域会

代表：柴田 知彦



■城北地域は、豊島区、北区、板橋区および練馬区の行政区ですが、行政上この括りがある訳ではないので、必然的に活動は行政との連携より地域の市民との連携や情報の共有にその軸足があります。四区を俯瞰的に観ることで見いだす共通点や相違点は地域を理解する上で大切なものです。

この方向性のもと、まち歩きや見学会を企画し、地域会を市民に紹介することを中心に 2014 年度も活動しました。

地域会紹介リーフレットを作成し、市民や行政に配付しています。これは、彼らに地域会の活動を理解して頂く上で有効なものでした。また、「田端文士村地区」のまち歩きや地域会誌「KNIT #3」の編集は、地域固有の問題を広く普遍性を持って捉え、また、現在のまちの問題を城北地域において捉えるものであり、いろいろな側面から地域と地域会のありようを模索する活動でした。 〈執筆：事務局長 鈴木和貴 /PAX 建築計画事務所〉



田端文士村記念館にて



KNIT#3 表紙

港地域会

代表：鈴木 理巳



■港区という場所

23 区の中でも新たな再開発事業、大型プロジェクト建設が数多く進行している一方で国の重要文化財となる歴史的価値の高い建造物も多い。表通りからひとかわ裏に踏み込めば築 50 年の古びた木造住宅の背景に超高層ビルが立ち並ぶ風景を目の当たりにする場所でもある。このように都市として希有のポテンシャルを有した区域であることと相まって住民は建物や街並み、美術、音楽、現代アートへの関心も高いといえる。

■MAS (Minato Architectural Seminar)

そんな中で地域会の活動の柱となっているのが 2010 年から始めた MAS セミナーである。MAS の目的は市民の方と一緒に “ 建築 ” を単に構築物という物差しだけでなく文化的な側面、視点からも考えて行こうというもので具体的には複数の建築家それぞれの意見を出し建築家の頭の中を覗いてもらい馴染んでもらう事。その目的からもセミナー後の 1 ~ 2 時間ワインを酌み交わしながらの談笑はその効果を倍増している。

■今後について

MAS を軸として活動のパイを更に大きくするために他団体との交流と相互乗り入れを考えていきたい。

また昨年からウェブデザイナーを研究会員として迎え休眠状態であったホームページを刷新し、今後 MAS 報告を中心により充実したものにしていきたいと考えている。 〈(株) 鈴木理巳建築計画所〉



MAS 風景

目黒地域会 (JIA 目黒)

代表：棚橋 廣夫



■成果を上げつつある地域会活動

2014 年度の目黒地域会活動は「いい緑のある 住みたい街をつくろう 街あるき」の会の継続と昨年度発足した「JIA 目黒街かどトーク」の開催でありました。街あるきの開催は、第 12 回目を迎え、今までの目黒区内の街歩きもほぼ区全域に及んだので今回は隣接区ボーダー域を設定、城南地域会との共催を致しました。恵比寿駅を出発、西小山駅までの全行程約 7.2 キロを目黒区、品川区にまたがって歩きました。この地域は地形的に目黒台といわれる東京湾に突き出た台地の崖線を形成することで江戸五色不動の一つといわれる目黒不動があり、区名もここに由来するルーツの場所でもあります。「JIA 目黒街かどトーク」については今回 3 回目となりますが、下目黒にある五百羅漢寺を取り上げました。「奇跡の寺院 - 五百羅漢寺」と題し江戸時代、本所五ツ目に創建された五百羅漢寺の数奇な運命を学芸員の方にお話頂きました。現地でのトークイベントには多くの一般の方々も参加され、50 人を超える催しとなり我々の意図した住民との交流の目的が達成されました。



第 3 回街かどトーク 開催

〈エディーネットワーク建築研究所〉

■地域会一覧 (2014 年度)

	県名	地域名	代表者名
1	神奈川	神奈川地域会	飯田善彦
2	千葉	千葉地域会	櫻井 修
3	埼玉	埼玉地域会	鶴崎健一
4	茨城	茨城地域会	河野正博
5	栃木	栃木地域会	慶野正司
6	群馬	群馬地域会	曾田 彰
7	山梨	山梨地域会	長田孝三
8	長野	長野県地域会	山口康憲
9	新潟	新潟地域会	小川峰夫
10	東京	中野地域会	安達治雄
11	〃	三多摩地域会	高田典夫
12	〃	杉並地域会	林 美樹
13	〃	新宿地域会	大野二郎
14	〃	城東地域会	岸 成行
15	〃	文京地域会	野生司義光
16	〃	渋谷地域会	南條洋雄
17	〃	世田谷地域会	小林正美
18	〃	千代田地域会	篠田義男
19	〃	中央地域会	石川雅英
20	〃	城南地域会	松本 裕
21	〃	城北地域会	柴田知彦
22	〃	港地域会	鈴木理巳
23	〃	目黒地域会	棚橋廣夫

■「ホームページワーキング」・「Bulletin 編集ワーキング」の活動に参加しませんか！

広報委員会では、ホームページの企画・運営や広報誌 Bulletin の編集に携わってくださる方(会員)を募集しています。「JIA に入会したばかりでまだ組織のことがよくわからない」「活動に参加してみたいがきっかけがつかめない」などお考えの方々にとっては、広報委員会の二つのワーキングは JIA の活動参加への足がかりになるはずです。

ホームページワーキング

支部 HP には会員向けのサイトの他に市民向け独立サイト「建築家 ONLINE」(<http://www.jia-kanto.org/>)があり、これは建築に興味のある子供から今後建築関連の職業に就きたいと希望する学生、そして自宅の新築や建築計画を検討中の方を対象に、タイムリーな情報発信を目指すサイトです。特に、昨年は特設ページ「建築家になろう」(<http://www.jia-kanto.org/online/kids/>)を加え、今春は「建築家 ONLINE」全体のデザインリニューアルに着手するなど、ホームページワーキングが主体となって出合うアイデアをもとにして、より市民のみならず親しみやすいサイトづくりが私たちになりつつあるところです。

是非一度、お気軽に足を運んでみてください。以下に二つのワーキングを紹介します。

全ての申込み・お問合わせ

JIA 関東甲信越支部事務局 / 大西 mohnishi@jia.or.jp
TEL : 03-3408-8291 FAX : 03-3408-8294

Bulletin 編集ワーキング

Bulletin ワーキングでは、会員自らが企画・取材・編集・校正を行い、手作りで誌面づくりを行っています。毎月 1 回のミーティングへの参加と、隔月発行する Bulletin の誌面の企画・編集作業を行います。また、JIA 内外への取材の機会もあり、中でも Bulletin の人気コーナー「覗いてみました他人の流儀」では、建築・デザイン分野はもとより様々な分野で活躍の方へインタビュー取材を行います。過去に取材・掲載させていただいた方は、ホームページでご覧いただけます。「覗いてみました他人の流儀」(<http://www.jia-kanto.org/online/tanin/>)

「広報委員として今年度を振り返る」

編集後記

■ 2014 年は市民向けサイト建築オンライントップページの刷新と「建築家に成ろう」も公開した年。この 1 年が過ぎたのも本当に早かったという印象です。今年度は工事中を何とかしたいという思いです。 [岡本]

■ 今までにまして欠席が多くご迷惑をお掛けしました。あらゆる分野で変化の多い昨今ですが、アンテナは広く軟らかく保っておきたいと思っています。 [倉島]

■ 息子が産まれたのがほぼ 1 年前、あつという間の一年でした。任期も残り一年となるので、もうしばらく息子の成長日記的な編集後記にお付き合いください(笑) [杉山]

■ 委員の皆さんの意見を聴く中で、幅広く建築を見詰め直すことができ、大変勉強になりました。 [長坂]

■ 広報委員へ返り咲き力不足ながら委員長を仰せつかり早一年。私が出来るのは、一会員として一市民として会報誌や HP を俯瞰するだけ、少しでも良くしようと奔走する委員、WG メンバーや事務局にただただ敬服の一年でした。 [高橋]

■ あれこれ考える余裕もなくあつという間に 1 年が過ぎた印象です。この 1 年間、執筆や取材にご協力いただきました皆様にあらためて感謝申し上げます。残り 1 年、さらに情報収集に努め、これまで以上に充実した『Bulletin』をお届けできるよう、精一杯活動していきたいと思えます。 [八田]

■ どこかの CM ではないけれど「世界は 誰かの仕事でできている」を実感できる広報委員会。JIA 盛りたての一助となるには微力な身ですが、この小欄に目を通して頂くだけでも担当者冥利につきますね。 [萩尾]

編集 : 公益社団法人 日本建築家協会
関東甲信越支部 広報委員会
委員長 : 高橋 隆博
副委員長 : 植木 健一・八田 雅章
委員 : 岡本 寛・倉島 和弥・杉山 英知・萩尾 昌則
中村 晃・Florian Busch・長坂 典和
編集長 : 八田 雅章
副編集長 : 倉島 和弥
編集ワーキングメンバー : 市村 宏文・大川 宗治・杉山 英知・立石 博巳
土居 志朗・萩尾 昌則・長坂 典和
表紙 / 本文デザイン : 株式会社 スタジオネオ 伊波 サチヨ・百瀬 美郷
■ 定価 300 円 + 税 / 会員の購読料は会費に含まれています。

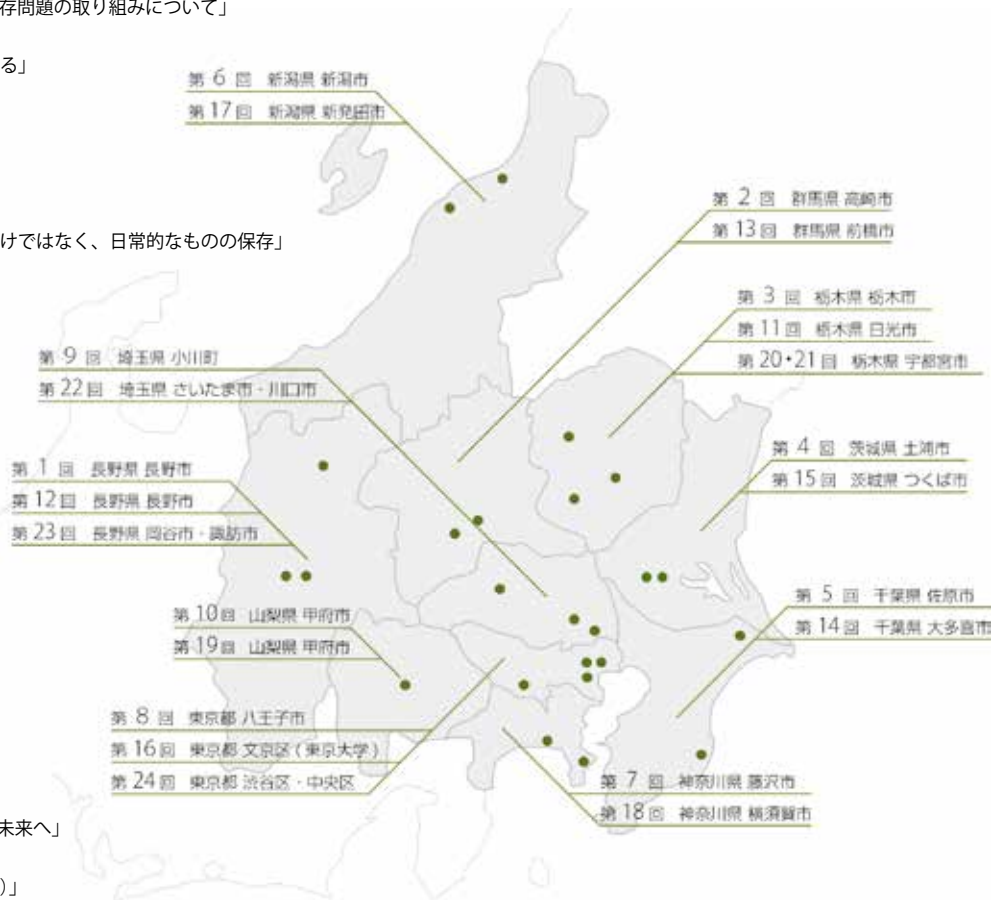
発行人 : 浅尾 悦子
発行所 : 公益社団法人日本建築家協会 関東甲信越支部
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-3-18 JIA 館
Tel: 03-3408-8291(代) Fax: 03-3408-8294
発行日 : 平成 27 年 5 月 15 日
印刷 : 株式会社 協進印刷

■ JIA 関東甲信越支部関連サイト一覧
・(公社)日本建築家協会(JIA) <http://www.jia.or.jp/>
・建築家 online (一般向け) <http://www.jia-kanto.org/>
・JIA 関東甲信越支部(会員向け)
<http://www.jia-kanto.org/members/>

©公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部 2015

保存問題大会

- 1991年 第1回 拡大委員会
「JIA 保存アピール 91 - JIA の保存問題の取り組みについて」
- 1992年 第2回 拡大委員会
「豊かな時代のまちづくりを考える」
- 1993年 第3回 拡大委員会
「神奈川県立音楽堂の議論」
- 1994年 第4回 拡大委員会
「ミッションによる活動」
- 1995年 第5回 拡大委員会
「歴史的文化的価値のあるものだけではなく、日常的なものの保存」
- 1996年 第6回 拡大委員会
「新潟「港町はいかに蘇るか」
- 1997年 第7回 拡大委員会
「大山から江ノ島へ！」
- 1998年 第8回 拡大委員会
「建築を残すということ」
- 1999年 第9回 保存問題 埼玉大会
「さいたまにみる保存の今」
- 2000年 第10回 保存問題 山梨大会
「使い続けていくために」
- 2001年 第11回 保存問題 栃木大会
「世界遺産のあるまちで」
- 2002年 第12回 保存問題 長野大会
「市民に支持される保存とは」
- 2003年 第13回 保存問題 群馬大会
「シルクの町に建築を求めて」
- 2004年 第14回 保存問題 千葉大会
「モダニズム建築 持続への道」
- 2005年 第15回 保存問題 茨城大会
「つくば 30年の検証 美しい街を未来へ」
- 2006年 第16回 保存問題 東京大会
「建築家と保存文化の現在 (いま)」
- 2007年 第17回 保存問題 新潟大会
「城下町しばたのいまと未来 まちの遺産をどう生かすか? 「守る」「生かす」「創る」 景観まちづくり」
- 2008年 第18回 保存問題 神奈川大会
「近代化遺産を市民にひらく 横須賀、浦賀が伝える近代の記憶の景」
- 2009年 第19回 保存問題 山梨大会
「近代化遺産を受け継ぐために地域の歴史と共に生きる保存活用の方法を探る」
- 2010年 第20回 保存問題 栃木大会
「大谷石の可能性を探る」
- 2011年 第21回 保存問題 栃木大会 Revenge
「大谷石の可能性を探る」
- 2012年 第22回 保存問題 埼玉大会
「日本文化の中のモダニズムをどう捉えるか - 保存活用と耐震性について」
- 2013年 第23回 保存問題 長野大会
「「保存は未来への創造である」 近代産業の衰退の影響と保存建築の活用」
- 2014年 第23回 保存問題 長野大会 Revenge
「「保存は未来への創造である」 近代産業の衰退の影響と保存建築の活用」
- 2015年 第24回 保存問題 東京大会
「未来へ伝える東京のアイデンティティ ヘリテージを共有する成熟社会に向けて」



アーキテツ・ガーデン建築祭

- | | |
|---|--|
| 2001年 アーキテツ・ガーデン 2001 建築祭 「緑豊かなまちと建築」 | 2009年 アーキテツ・ガーデン 2009 建築祭 「日本の暮らし・わがまち」 |
| 2002年 アーキテツ・ガーデン 2002 建築祭 「街の今昔、そして未来」 | 2010年 アーキテツ・ガーデン 2010 建築祭 「デザインという未来」 |
| 2003年 アーキテツ・ガーデン 2003 建築祭 「夢・デザイン・まち」 | 2012年 アーキテツ・ガーデン 2012 建築祭 「建築家はともだち」 |
| 2005年 アーキテツ・ガーデン 2005 建築祭 「住まい × 街かど」 | 2013年 アーキテツ・ガーデン 2013 建築祭 「建築家はともだち」 |
| 2006年 アーキテツ・ガーデン 2006 建築祭 「元気な建築・安全な社会」 | 2014年 アーキテツ・ガーデン 2014 建築祭 「建築家はともだち」 |
| 2008年 アーキテツ・ガーデン 2008 建築祭 「緑とまちと建築と」 | 2015年 アーキテツ・ガーデン 2015 建築祭 「建築家はともだち～まちの変遷と未来～」 |